

金沢大学概要

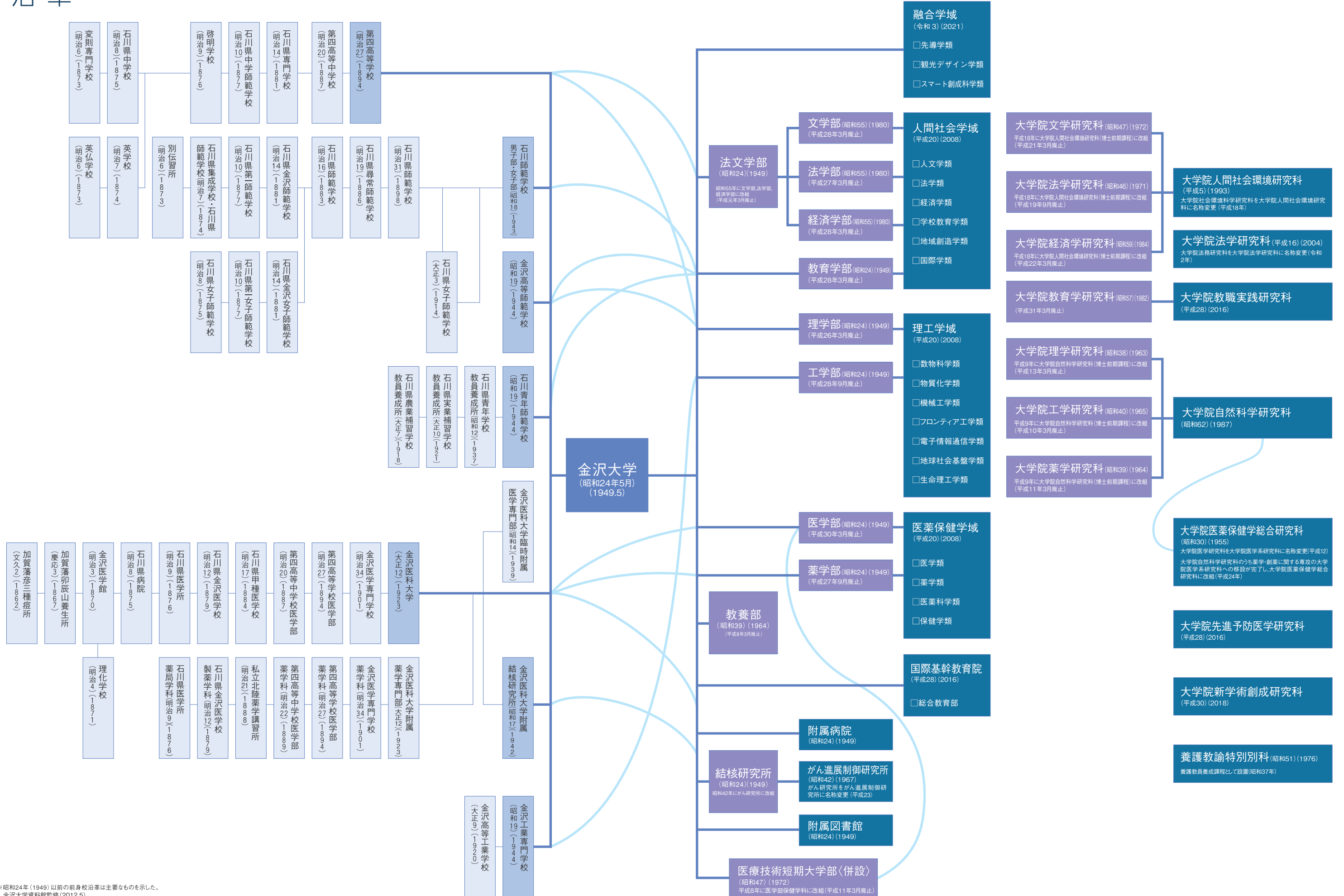
OUTLINE OF KANAZAWA UNIVERSITY

2024

目次

沿革	4	大学院	13	統合創成研究環	18	卒業生・修了者数（学位授与数）および進路状況	36
金沢大学憲章・歴代学長一覧	6	人間社会環境研究科	13	附置研究所等	18	国際交流	38
組織	7	自然科学研究科	13	附属図書館	19	科研費・外部資金受入等	45
教育研究組織	10	医薬保健学総合研究科	15	学内共同教育研究施設等	19	附属病院	46
未来創成教育環	10	先進予防医学研究科	15	データで見る金沢大学	24	附属図書館	47
学士	10	新学術創成研究科	15	役職員	26	土地・建物および所在地	48
融合学域	10	法学研究科	16	役職員数	28	建物配置図	50
人間社会学域	10	教職実践研究科	16	財務状況	29	キャンパス位置図	54
理工学域	11	別科	16	学域・学類・研究科等	30		
医薬保健学域	12	研究域附属研究センター	17	学生数	32		
国際基幹教育院	12	附属病院	17	入学志願者および入学状況（学士）	35		





※昭和24年(1949)以前の前身校沿革は主要なものを示した。
金沢大学資料館監修(2012.5)

金沢大学憲章

人類は長い歴史の中で、創造と破壊を繰り返しながらも自然及び社会の諸現象に対する理解を深め、公共性の高い文化を育んできた。学術研究を預かる大学は、知の創造と人材の育成をもって世代を繋ぎ多様な社会の形成と発展に貢献してきた。そして世界は今や国家の枠を越え、多くの人々が地球規模で協同する時代を迎えている。

前身校の歴史を引き継ぎ1949年に設立された金沢大学は、戦後の激動の時代を歩み、我が国と世界の発展に一定の役割を果たしてきたが、国立大学法人となるこの機会に、「社会のための大学」とは何であるかを改めて問い質さねばならない。

金沢大学は、本学の活動が21世紀の時代を切り拓き、世界の平和と人類の持続的な発展に資するとの認識に立ち、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置付けをもって改革に取り組むこととし、その拠って立つ理念と目標を金沢大学憲章として制定する。

教育

- 金沢大学は、各種教育機関との接続、社会人のリカレント教育、海外からの留学、生涯学習等に配慮して、多様な資質と能力を持った意欲的な学生を受け入れ、学部とそれに接続する大学院において、明確な目標をもった実質的な教育を実施する。
- 金沢大学は、学生の個性と学ぶ権利を尊重し、自学自習を基本とする。また、教育改善のために教員が組織的に取り組むFD活動を推進して、専門知識と課題探求能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材を育成する。

研究

- 金沢大学は、真理の探究に関わる基礎研究から技術に直結する実践研究までの卓越した知の創造に努め、それらにより新たな学術分野を開拓し、技術移転や産業の創出等を図ることで積極的に社会に還元する。
- 金沢大学は、人文社会、自然科学及び医学の学問領域や、基礎と応用など研究の性格にかかわらず、構成員が学問の自由と健全な競争をもって主体的に研究を進める環境を整備する。また、萌芽的研究や若手研究者の育成に努め、常に新しさに挑戦し個性を引き出す体制を維持する。

社会貢献

- 金沢大学は、本学の有する資源を活用し、地域における学術文化の発展と教育・医療・福祉等の基盤づくりに貢献し、北陸さらには東アジアにおける知の拠点として、グローバル化の進む世界に向けて情報を発信する。
- 金沢大学は、入学前から卒業後に及ぶ学生教育の拡大、研究成果である知的財産の発掘・管理と社会への積極的な還元、さらには高度先端医療の発展と普及に努め、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の責務に応える。

運営

- 金沢大学は、それぞれの部局が専門性と役割に基づき独自性を発揮しつつ、全学的にそれらを有機的に連関させ、自主的・自律的に運営する。また、計画の達成度を評価し、組織・制度の見直しを含めて不断の改革を進める。
- 金沢大学は、国からの交付と自己収入から成る資金を厳格かつ計画的に活用するとともに、人権を尊重し、すべての構成員が職務に専念できる安全な環境を提供する。また、公共に奉仕する国立大学法人としての社会的な説明責任に応える。

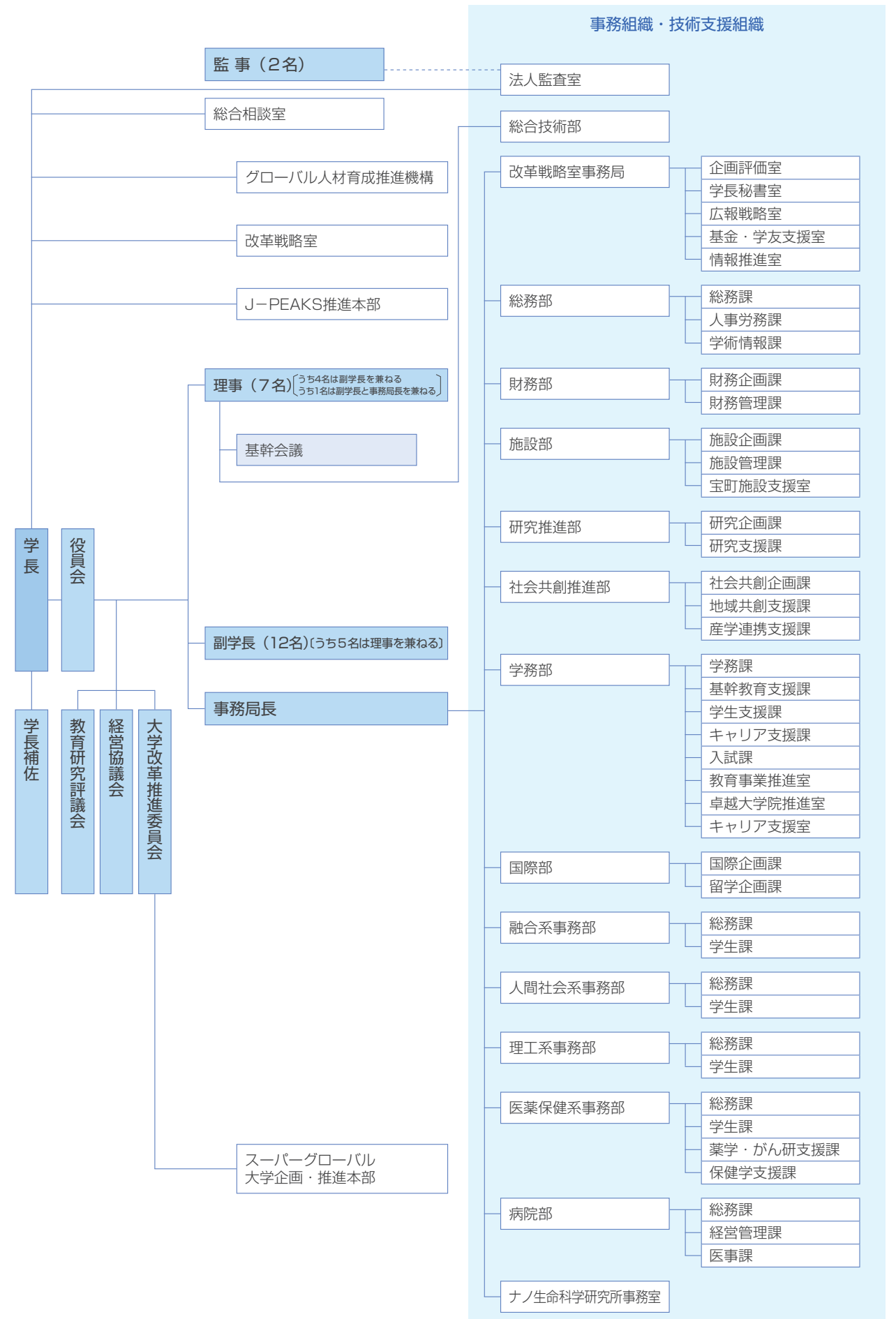
歴代学長一覧

初代	戸田 正三	1949.9.22~1961.9.21
第2代	石橋 雅義	1961.9.22~1967.9.21
第3代	中川 善之助	1967.9.22~1973.9.21
第4代	豊田 文一	1973.9.22~1979.9.21
第5代	金子 曾政	1979.9.22~1985.9.21
第6代	本陣 良平	1985.9.22~1989.9.21

第7代	青野 茂行	1989.9.22~1993.9.21
第8代	岡田 晃	1993.9.22~1999.9.21
第9代	林 勇二郎	1999.9.22~2008.3.31
第10代	中村 信一	2008.4.1~2014.3.31
第11代	山崎 光悦	2014.4.1~2022.3.31
第12代	和田 隆志	2022.4.1~

組織

運営組織



教育研究組織

未来創成教育環

学士	融合学域
	人間社会学域
	理工学域
	医薬保健学域

国際基幹教育院

大学院	人間社会環境研究科 (博士課程(前期・後期課程))
	自然科学研究科 (博士課程(前期・後期課程))
	医薬保健学総合研究科 (修士課程, 博士課程(前期・後期課程, 医学4年の課程, 薬学4年の課程))
	先進予防医学研究科(博士課程)
	新学術創成研究科 (博士課程(前期・後期課程))
	法学研究科 (修士課程・専門職学位課程)
	教職実践研究科(専門職学位課程)
	別科

別科

研究域	融合研究域
	人間社会研究域
	理工研究域
	医薬保健研究域

先導学類
観光デザイン学類
スマート創成科学類
人文学類
法学類
経済学類
学校教育学類
附属幼稚園
附属小学校
附属中学校
附属高等学校
附属特別支援学校
地域創造学類
国際学類
数物科学類
物質化学類
機械工学類
フロンティア工学類
電子情報通信学類
地球社会基盤学類
生命理工学類
能登海洋水産センター
医学類(6年制)
薬学類(6年制) 附属薬用植物園
医薬科学類
保健学類
総合教育部
GS教育系
外国語教育系
養護教諭特別別科(1年制)
融合科学系
人文学系
法学系
経済学経営学系
学校教育系
地域創造学系
国際学系
グローバル文化・社会研究センター
数物科学系
物質化学系
機械工学系
フロンティア工学系
電子情報通信学系
地球社会基盤学系
生命理工学系
先端宇宙理工学研究センター
医学系
薬学系
保健学系
AIホスピタル・マクロシグナルダイナミクス研究開発センター
サビエンス進化医学研究センター

附属病院

統合創成研究環

附置研究所等	がん進展制御研究所
	ナノ生命科学研究所
	ナノマテリアル研究所
	設計製造技術研究所
	高度モビリティ研究所
	古代文明・文化資源学研究所
	先端観光科学研究所

附属図書館

学内共同 教育研究施設	学術メディア創成センター
	環日本海域環境研究センター
	疾患モデル総合研究センター
	子どものこころの発達 研究センター
	先進予防医学研究センター
	環境保全センター
	未来知実証センター
	国際日本研究センター
	中央図書館
自然科学系図書館	
医学図書館	

低レベル放射能実験施設
尾小屋地下測定施設
臨海実験施設
植物園
研究基盤支援施設
実験動物研究施設
アイソトープ総合研究施設
アイソトープ理工系研究施設
機器分析研究施設
ELPセンター

保健管理センター

グローバル人材育成推進機構

新学術創成研究機構

先端科学・社会共創推進機構

インキュベーション施設
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
バイオマス・グリーンイノベーションセンター

ダイバーシティ推進機構

学内共同 利用施設	極低温研究室
	資料館
	技術支援センター

能登里山里海未来創造センター

高大接続コア・センター

教学マネジメントセンター

教職総合支援センター

数理・データサイエンス・AI教育センター

教育研究組織

未来創成教育環

学修者本位教育への転換と「自ら学び、自ら育む」教育環境を提供

学長による直接的なガバナンス体制の下で、全学の教育組織を統括してその改革を推し進め、本学教育改革の抜本的飛躍を担う組織です。高大院接続・入試改革やダイバーシティ教育環境の構築、文理医融合型教育の推進等、本学のこれまでの教育改革実績を更に推し進めるとともに、教育・学修環境のDXを中心とした改革を断行し、徹底した教学IRの導入と個別最適学修支援システムの構築、社会との共創教育の拡大等、学生自身が「自ら学び、自ら育む」教育環境の構築を目指します。

学士

融合学域

先導学類	「社会変革を先導する中核的リーダー」の育成を目指す 現代社会に表出する複層的な諸課題に関し、文系理系を問わない幅広い知見を活用しながら、その解決に取り組むとともに、イノベーションの創成をリードする意欲と素養を身につけた人材の育成を目指します。学生は自らが追究したい課題を設定し、その課題解決に必要な学知を、「自分の問い」を軸に、オーダーメイドの履修計画を作成して学びます。
観光デザイン学類	文理医融合型の学びを通して、新しい観光の価値創造に挑戦する 文理医融合型のカリキュラムの下、幅広い知見を活用し、新たな観光価値をデザインする能力を身につけ、ビジネスモデルの転換に対応しながら、我が国の観光を牽引する人材を養成します。社会との共創を学ぶ多様なプロジェクト型演習を配置し、自ら発見、設定した課題の解決に向けて、複数の研究分野を横断的に学修します。
スマート創成科学類	スマート科学技術の創造と実装により未来社会を切り拓く 文理医融合型のカリキュラムを通じて、仮想と現実の高度な融合を活用し、持続可能なスマートシティを見据えた未来の科学を創成する人材を養成します。AIやVRなどのスマート技術を駆使し、生活や社会の課題を解決し新たな価値や豊かさを創出する力を身につけ、インターンシップなどの実践経験と産学官金連携の学びにより社会との共創や実装力を磨きます。

人間社会学域

人文学類	人間に対する洞察力を基にさまざまな現代的課題に取り組む人を育てる 思想・心・社会・歴史・文化・文学・言語などの多様な観点からの学びを通じて、人間の本質的、多面的理解を深めることを目的としています。心理学、現代社会・人間学、考古学・文化資源学、歴史学、日本・中国言語文化学、欧米言語文化学、言語科学の7つのプログラムを設け、学生の関心に合わせた学びにつながる28の履修モデルを提示しています。
法学類	よりよい社会実現のために法的・政策的な観点から社会に貢献する 高度に専門化・多様化した現代社会において、複雑な社会問題を解決するためには、その解決に必要な知識と能力を身につけることが不可欠です。法学類では「公共法政策コース」、「企業関係法コース」、「総合法学コース」の3つのコースを設け、現実社会のダイナミズムの中で機能する法的な知識や手法の修得を目指します。

経済学類	現代社会への問題意識と課題解決に向けて行動できる人材を育成 経済学類では、5つの人材養成目標を掲げています。①幅広い教養、知識、判断力を持った社会で活躍できる人材 ②経済学・経営学の専門知識を持った人材 ③自分で課題を発見し、解決できる人材 ④国際コミュニケーション力、プレゼンテーション力、ICT力を持つ人材 ⑤地域社会の問題に関心を持ち、関わることでできる人材を養成します。
学校教育学類	知識・指導力・共感性 — 子ども本位の教師を育てる 富山大学教育学部と共同で運営する共同教員養成課程では、地域のリーダーとなる資質を備えた教員を育てます。異なる考えを持つ仲間との交流を通して共感性と協働性を養い、多様な専門領域の授業によって幅広い知識を獲得できる教育体制をとっています。総合的な指導力を身につけるため、野外活動や教育実習活動などの教育実践も重視しています。
地域創造学類	果敢に挑戦する次代の地域づくりリーダーを育てる 地域に暮らす一人ひとりの幸福を探索する最先端の研究領域「地域創造学」の学修と実践を通して、グローバルな視野を持ちつつ持続可能な地域づくりを目指します。現代的な地域課題と自分の将来像に重点を置いた2つの科目群から核となるプログラムを1つずつ選択して学修するカリキュラムで、専門性と総合性を兼ね備えた地域づくり人材を養成します。
国際学類	グローバル化する社会で活躍できる「真の国際人」を育成する 異文化とのくしなやかな共生>を実現する思考力・創造力・コミュニケーション力を持ち、グローバル化が進む現代社会で活躍できる「真の国際人」を養成します。日本と国際社会について多面的・総合的に学び、理解を深めるため、「国際関係・国際協力系」「地域研究系」「インクルーシブ社会構築系」の3つの系に10のプログラムを設けています。

理工学域

数物科学類	数学、物理学、コンピュータを駆使して森羅万象の謎に迫る 自然科学の基礎をなす数学と物理学は、コンピュータの進歩により発展した応用数理と計算科学によって新たな時代を迎え、複雑な自然現象の解明や理論の検証が可能となりつつあります。数物科学類では、この4つの学問を有機的に総合した教育と研究を行い、培った論理的思考力を生かして社会のさまざまな分野で活躍する人材を育てます。
物質化学類	原子から宇宙まで、幅広い化学を究め、未来の創造力を育む 化学は、自然界で起こるさまざまな現象の原子・分子レベルでの理解から、21世紀に必要な環境に適合した新しい機能性物質の創製、さらに日常生活を支える化学製品の開発と製造過程に至るまでの幅広い領域を含んでいます。化学を通じて科学・科学技術・文化の発展や持続可能な社会の実現に貢献することができる人材を養成します。
機械工学類	先進的な技術とモノづくりで、持続可能な未来社会構築を牽引する 我が国が目指す未来社会を具現化するための Society5.0サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させ、知識や情報を共有しながら全ての人とモノとをつなげ、温室効果ガス排出削減、持続可能な産業構造の構築など自然、人間社会との調和を図り、グローバル化している工業・産業の広い分野で活躍できる技術者・研究開発者を育成します。
フロンティア工学類	近未来社会を支える先端テクノロジーを、工学の融合で切り拓く 技術革新が進む現代社会では、さまざまな工学の知識を融合して未来社会を創造する能力が求められます。フロンティア工学類では、従来の工学の専門分野（機械工学、電子情報工学、化学工学）を学んだのち、先進的な5つのフロンティアプログラムを選択し、従来の工学の枠を超えた未踏領域～フロンティア～を開拓する素養を身につけます。
電子情報通信学類	電気電子・情報通信技術を通して、未来の情報化社会を創造する エネルギー、エレクトロニクス、情報通信およびコンピュータ技術は相互に強く関連し、持続的発展可能で高度に情報化された未来社会を構築する上で重要な役割を果たしています。これらの分野の体系的な教育を通して、未来志向の創造力を備え、高度情報化社会にグローバルな視点から貢献できる技術者、研究者を育成します。

学士

理工学域

地球社会基盤学類

地球環境を理解し未来をつくる科学者・技術者・教育者を育てる

地球と生命の46億年の歴史および環境や自然災害、インフラストラクチャーを対象に、理学と工学の両面から、総合的かつ実践的な教育を行い、地球環境の調査・研究や豊かな社会を構築するための科学技術を理解し、地球をとりまく自然現象の多角的な解明、安全で快適な社会基盤の構築・維持、魅力ある都市・環境づくりができる人材を育成します。

生命理工学類

生命の原理を究め、生命を活かす研究者、技術者、教育者をめざす

生きた個体や細胞にふれながら生物学の面白さを体験する実物教育を通して、生物科学、環境科学、海洋資源学、生命工学の基礎から最先端までの知識を学びます。生命の探究と利用において革新的な進展をもたらすとともに、持続可能な文明社会の発展を牽引できる人材を育成することを目指します。

医薬保健学域

医学類（6年制）

人間性豊かで社会に貢献できる医師、医学者を育てる

医学類の教育理念は、「人間性を重視し、かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者の育成を図ることにより、世界の医療、健康、福祉及び医学研究に貢献する」です。学修到達目標として、知識および技能、研究心、倫理観、地域医療、コミュニケーション、危険・事故の予防の6領域を定め、6年間にわたる医学教育により医師・医学者を育成します。

薬学類（6年制）

薬の専門家として健康や医療に関わる諸課題の解決に挑戦

人類が抱える健康や医療に関わる諸課題の解決に挑戦し、持続可能社会の実現に貢献する、薬剤師資格を有した多様な「薬（くすり）専門家」を養成することを目指します。次代の薬学教育・研究を担う「大学教員・研究者」のほか、薬学の基礎から臨床までを修得し、プラスαの専門性を身につけたさまざまな「薬学プロ人材」等を養成します。

医薬科学類

次代の先進医療や画期的新薬開発に寄与する医薬科学研究者を養成

健康長寿社会の実現に向けて、次代の医療や新薬開発等のイノベーションにつながる先端的な医薬科学研究を、世界レベルで展開できる高度な研究者を養成します。「生命医科学」と「創薬科学」の2コース（定員各9名）からなり、医薬共通の基礎から各コースの深い専門性へとシームレスに学び、大学院進学まで視野に入れたカリキュラムが特徴です。

保健学類

人間の誕生から最期までを科学の目で捉え、健康な生活をサポートする

人間としての尊厳を維持し、健康で幸福な生活の実現に貢献することを目指す保健学の基礎技術・知識を学びめるとともに、保健・医療・福祉の発展に寄与する「保健学のプロ」（卒業時に国家試験受験資格を取得）を育成します。保健・医療・福祉の科学的知識と理論、技術の修得を通じ、多くの課題に応えられる高度な専門的人材を育成します。

国際基幹教育院

基幹教育を強固に推進し、本学の教育全体の高度化と国際化を牽引

金沢大学独自の人材育成方針である「金沢大学〈グローバル〉スタンダード（KUGS）」に基づき、学士課程から大学院課程における基幹教育を推進し、本学の教育全体の高度化と国際化を牽引します。4つの教育部門が連携・協力し、体系的な共通教育カリキュラムを提供しています。また、「文系一括・理系一括」入試で入学した学生は本院内設置の「総合教育部」に1年間所属し、2年次に学類へ移行します。国際基幹教育院は、学生が適切に学類選択できるよう支援体制を整えています。

大学院

人間社会環境研究科

人文学専攻 （博士前期課程）

広げるか、深めるか。多様な人文知のあり方を探る

複合的領域に関する研究を主に行う5つの学際総合型プログラムと、人間科学、歴史学、言語・文学、文化資源学などの特定専門領域に関する研究を主に行う16の専門深化型プログラム、そして公認心理師養成プログラムがあり、学生は入学試験の際にこの中から1つを選択して履修します。取得できる学位は修士（文学）または修士（学術）です。

経済学専攻 （博士前期課程）

理論・政策・経営から国際社会経済の現代的諸問題に対峙する

経済理論・政策、国際社会・経済、経営情報の3コースがあり、学生はいずれかを選択して履修します。取得できる学位は、修士（経済学）、修士（経営学）または修士（学術）です。

地域創造学専攻 （博士前期課程）

暮らす人が生き生きとかがやく地域を創り出す

地域創造学と教育支援開発学の2コースからなり、高度な地域創造力を備えた専門職業人の育成を目指し、課題型インターンシップなどを用意しています。両コースとも取得できる学位は修士（地域創造学）または修士（学術）です。

国際学専攻 （博士前期課程）

日本語・外国語を駆使し、広く国際社会や日本語教育、国際交流に資する人材を育てる

国際関係・地域研究コースでは、外国語運用能力を駆使し、国際社会の諸問題について総合的な視点から研究を行います。日本語教育・日本文化研究コースでは、日本語、日本語教育、日本文化に関する知識と教授能力を高度化させる研究を行います。両コースとも取得できる学位は修士（国際学）または修士（学術）です。

人間社会環境学専攻 （博士後期課程）

人間・社会・環境が直面する諸問題を解決し、新たな知を開拓する

人文学、法学・政治学、社会経済学の3コースからなり、学生はそのいずれかに所属して履修します。取得できる学位は、博士（社会環境学）、博士（文学）、博士（法学）、博士（政治学）、博士（経済学）または博士（学術）です。

公認心理師養成プログラム

社会と人々に寄り添い、高度な専門性を持つ公認心理師を養成

公認心理師は、保健医療・教育・福祉・産業労働・司法犯罪に関わる心理的援助を行う心理専門職の国家資格です。人間社会環境研究科人文学専攻博士前期課程では、公認心理師受験資格を取得可能な「公認心理師養成プログラム」を開設し、社会と人々に寄り添うことのできる公認心理師を育てています。

自然科学研究科

数物科学専攻 （博士前期課程・ 博士後期課程）

数学、物理学、計算科学の叡智で自然現象を解明する

自然科学の根幹をなす数学、物理学に加え、コンピュータの進歩とともに発展した新しい学問である計算科学の教育研究を行います。自然科学の諸問題を根本的なレベルで解明できる能力や、習得した専門知識と研究手法を、高度職業人や研究者として、国際社会や自然界の多様な問題の解決に応用できる能力を備えた人材を育成します。

物質化学専攻 （博士前期課程・ 博士後期課程）

物質の解析や創成を通して、最先端の化学を切り拓く

自然界のさまざまな現象を物質の変化という観点から捉え、自然と調和した豊かな社会を実現するために、化学が関係する広範な分野において、自ら課題を見出し、先導的研究を実施できる高度な人材（研究者・技術者）の育成を行っています。

機械科学専攻 （博士前期課程・ 博士後期課程）

機械工学をベースとした実践的で幅広い教育研究を行う

自然と人間との調和を考慮した機械科学について、実践的かつ幅広い教育研究（自然との適合、効率的な資源やエネルギーの利用、快適で安全、秩序ある社会の発展に貢献する教育研究）を行っています。

自然科学研究科

<p>フロンティア工学専攻 (博士前期課程)</p>	<p>工学の専門性の深化・融合により未来社会の未踏領域に挑む 電子機械、機械工学、化学工学、電子情報工学の各分野における専門性を深化させるとともに、これらを融合して未来社会で必要とされる課題やイノベーションに対応できる専門知識と俯瞰力・総合化力を醸成します。さらに高い倫理観と国際性のもと、人類社会の持続的発展に貢献できる技術者・研究者を育成します。</p>
<p>電子情報通信学専攻 (博士前期課程)</p>	<p>電気電子・情報通信学を通して、未来の情報化社会を創造する 創造力豊かで、新分野開拓にも意欲を持ち、自立心と統率力、国際性を備えた、電気電子工学、情報通信工学分野の研究者や技術者の育成を目指します。また、最新の情報技術からグローバルなエネルギー対策や環境問題まで、専門性に加えて総合的・学際的な課題に取り組むことができる人材を育成します。</p>
<p>地球社会基盤学専攻 (博士前期課程)</p>	<p>地球環境のしくみを理解し持続可能な社会基盤のあり方を探究する 「環境の世紀」とも言われる21世紀。本専攻では、地球惑星科学の観点から地球環境とその成り立ちの総合的な理解によって未来の地球像を捉えるため、そして、社会基盤工学の観点から自然災害や環境変動に対応した社会基盤システムを構築するための教育と研究を行い、環境と調和した持続可能な未来社会の実現に貢献します。</p>
<p>生命理工学専攻 (博士前期課程)</p>	<p>生命の原理を究め豊かで持続可能な自然と社会の実現を目指す 豊かで持続可能な自然環境と自然と調和のとれた人間社会を実現するため、生命現象の謎に挑戦する生物学、海洋と陸水圏の生物種の生理・生態を学び食料生産へとつなげる海洋生物資源科学と、生物学を工学的発想で社会に適用するバイオ工学の各分野で、専門知識とコミュニケーション能力、問題解決能力と実践力を身につけた人材を育成します。</p>
<p>電子情報科学専攻 (博士後期課程)</p>	<p>電子情報科学を通して、高度情報ネットワーク社会を実現する 高速・大容量かつ快適な高度情報ネットワーク社会の実現に向けて、革新的な技術開発を行っています。電気工学、電子工学、通信工学、情報工学の分野について国際水準の教育を系統的に行うとともに、これらの分野を連携強化した新しい技術を創成します。</p>
<p>環境デザイン学専攻 (博士後期課程)</p>	<p>自然と調和した持続可能な社会・環境基盤の創造を目指して 自然と調和した社会・環境基盤の創造を志向し、持続可能かつ安全で快適な国土・都市づくりの要となる社会基盤を構築する責務を担うため、調査・研究、計画、設計・施工・維持管理、さらには廃棄物の処理・再生・更新・廃棄に渡る環境デザインの幅広い局面が必要となる、高い専門性と学際性を備えた技術・工学について、教育研究を行っています。</p>
<p>自然システム学専攻 (博士後期課程)</p>	<p>自然と調和した科学の発展と豊かな生活の実現を目指す 生物学、バイオ工学、化学工学および地球環境学が融合してできた、まさに理工の融合領域に挑戦する専攻です。専攻の教育を通じて、自然科学の分野で、グローバル感覚、創造力、倫理観の高い研究者・技術者・教育者を育成しています。</p>

サステナブル理工学プログラム

分野横断教育でイノベータ型博士人材を養成

持続可能で安全・安心な社会の発展に貢献し、国際社会で幅広く活躍できるイノベータ型博士人材を養成する5年一貫型プログラムです。本プログラムでは、多様な学問分野に立脚し専門領域を横断する新しい領域を学びます。

医薬保健学総合研究科

医科学専攻
(修士課程)

医学に基盤を持ち多様な専門的背景をもつグローバルな人材を育成

生命科学、基礎医学および臨床医学を体系的・集中的に学ぶとともに、指導教員の研究指導のもとで医学に関連する研究に取り組みます。医学分野での研究者並びに医療・産業分野の専門的な職業人として活躍しうる医学的資質を身につけた人材を養成することを目的とし、文系・理系を問わない多様な学問的背景を持つ方を受け入れています。

医学専攻
(博士課程)

医学の分野で世界をリードする研究者および高度専門職業人を養成

医学専攻は、疾病に対する医学と治療を主眼として、基礎・臨床の融合的・発展的な教育研究を推進するため設置されました。幅広い分野における医学的知見および疾病機構や病態の解明に必要な能力の基盤となる学識を有し、疾病に罹患した患者に対し迅速かつ的確な診断や、患者に負担の少ない効果的で良質な治療を開発し提供できる人材を養成します。

薬学専攻
(博士課程)

高度な専門性を有する薬学教育・研究のリーダー・医療人へ

薬学を中核に据えた分野における最先端の知識、医療人としての実践的な研究能力、および高い倫理観と国際的視野の醸成を目的とします。医療系学問分野が横断的に連携した学際的環境の中で、幅広い分野での教育を通して、高い専門性を有する薬学教育・研究のリーダー、自然科学の素養と学術的に優れた研究能力を兼ね備えた医療人を養成します。

創薬科学専攻
(博士前期課程・
博士後期課程)

国際的視点で活躍できる創薬科学・生命科学の先駆的な研究者へ

博士前期課程では、創薬科学の幅広い知識と研究能力を兼ね備え、国際的視野を有する人材の養成を目的とし、創薬を含む生命科学全般に貢献できる人材を養成します。博士後期課程では、最先端の知識や技能と高い研究能力の醸成を目的とし、高い見識、卓越した研究能力、強いリーダーシップを備えた、国際的に活躍できる研究者を養成します。

保健学専攻
(博士前期課程・
博士後期課程)

21世紀の保健学を先導する知の創成と新学問領域を形成する

保健学の総合的研究および学際的研究を推進し、21世紀の保健学を先導する知の創成と新しい学問領域の形成を行います。博士前期課程では、豊かで幅広い学識と高度な問題解決型思考能力を持つ指導の高度専門職業人を、博士後期課程では、高度な研究能力を持つ国際的研究者・教育者を育成し、保健学の発展と人類の健康と福祉の向上に寄与します。

先進予防医学研究科

先進予防医学共同専攻
(博士課程)

予防医学についての国際的視野を持ち社会に還元できる人材を育成

金沢大学、千葉大学、長崎大学が共同で同一のカリキュラムにより教育を行う、4年制の博士課程の共同大学院です。オミクス情報からマクロ環境情報まで個人や環境の特性を網羅的に分析・評価し、教育研究分野や医療分野等で、0次予防から3次予防までを包括した「個別化予防」を実践できる人材を養成します。

新学術創成研究科

融合科学共同専攻
(博士前期課程・
博士後期課程)

“融合型大学院教育モデル”から「新たな知」の創造

異分野融合による科学技術イノベーションで現代社会の課題を解決する人材を育成します。北陸先端科学技術大学院大学と共同でカリキュラムを構成しており、両大学の教員の専門は人文・社会科学、自然科学、医薬保健学と多岐にわたります。学生は自身の専門に加え、専門の異なる科目履修やラボ体験等を通じ、多様な観点から融合科学に挑戦します。

ナノ生命科学専攻
(博士前期課程・
博士後期課程)

世界最先端の研究拠点で未踏ナノ領域を切り拓く

本学ナノ生命科学研究所（WPI-NanoLSI）の研究実績を基盤とし、高性能走査型プローブ顕微鏡（SPM）技術を用い、ナノレベルでの原子・分子の動態計測および動的挙動制御技術の開発に取り組む人材や、世界最先端の動態計測および動的挙動技術を生命・物質科学分野に展開し、その現象の解明に向けた研究に取り組む人材を養成します。

大学院

ナノ精密医学・理工学卓越大学院プログラム（卓越大学院プログラム）

ナノ技術を活用できる健康課題解決人材を育成

大学院自然科学研究科，医薬保健学総合研究科，先進予防医学研究科および新学術創成研究科の4研究科を横断する5年一貫型の博士課程（または4年制博士課程）学位プログラムで，2019年度，文部科学省「卓越大学院プログラム」に採択されました。世界トップレベル研究拠点ナノ生命科学研究所の卓越した研究環境の下，民間企業も参画し，人類社会の課題である「がん，生活習慣病，脳神経病，微小粒子・ナノ材料による疾患」を対象に，技術に強いナノ精密医学・医学に強いナノ精密理工学プロフェッショナルを育成します。

法学研究科

法学・政治学専攻 （修士課程）

キャリアアップにつなげる法学・政治学の高度専門教育

研究コースと高度専門職コースの2コースがあり，研究コースは，基礎法学，公法学・社会法学，民法法学，政治学の4つのプログラムの下，法学や政治学を専門とする研究者の養成を行います。高度専門職コースは，法や政治に関する専門知識を生かした職業人の養成を行います。両コースとも取得できる学位は修士（法学）または修士（政治学）です。

法務専攻 （専門職学位課程）

少人数授業による地域に根ざした法曹教育

法曹養成のための専門職大学院です。標準コース（修業年限3年）と短縮コース（同2年）があります。地域に根ざした法曹教育を基本理念とし，少人数教育により循環型学習を実施します。修了者には法務博士（専門職）の学位が授与され，司法試験の受験資格が与えられます。司法試験合格者の多くは，北陸三県を中心に弁護士として活躍しています。

教職実践研究科

教職実践高度化専攻 （専門職学位課程）

現代の教育課題に挑戦する教職実践知の交流拠点

高度な専門的知識と実践的指導力を有する教員を養成する専門職大学院です。教育の多様性を総合する「探究教育」と人の多様性を尊重する「共生教育」の2領域から，現代の教育課題に接近します。全ての授業や研究指導を研究者教員と実務家教員が共同して担当します。修了者には，教職修士（専門職）の学位が授与され，専修免許状の取得も可能です。

大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所（金沢校） （こころの相互認知科学講座）

科学的視点をもって子どものこころを健やかに育てるために

子どものこころと脳の発達およびその障がいに関する高度な知識と技能の修得を目的とした博士前期課程（修士，2年）および博士後期課程（3年）です。子どものこころの課題の解決に取り組む，さまざまな専門的背景を持つ人たちを連携・統合できる，高度な指導者および研究者を養成することが目標です。金沢校では，社会認識，コミュニケーションの発達の本質を探るため，神経生物学，脳機能イメージング，精神医学，心理学および教育学を融合した教育と研究に取り組んでいます。

別科

養護教諭特別別科

実践的な演習で養護教諭を養成

文部科学大臣より指定された1年制の養護教諭養成機関です。看護師免許取得または取得見込の者を対象とし，取得した看護師の免許科目を基盤に養護教諭一種免許取得を目指します。免許取得に必要な「養護に関する科目」では，教育現場に直結させた実践的な演習を，「教職に関する科目」では，教育の本質に関する講義とともに養護実習を重視しています。

研究域附属研究センター

人間社会研究域

グローバル文化・社会研究センター

グローバル化・デジタル化の進展に伴う諸課題を解きほぐす

本センターでは，人文科学・社会科学的観点から，グローバル化・デジタル化の進展する現況を，負の側面まで含めて考察し理解を深めます。また，それに関連して生じる人間と社会に関わる根本的な諸課題の発見・解決と社会変革の方向性を示し，文化や社会のさらなる活性化を目標とします。そのため，本センターは「グローバル・レジリエンス部門」「越境文化研究部門」「デジタル社会構造・変革研究部門」の3部門，11のプロジェクト領域によって諸課題の解決を目指します。

理工研究域

先端宇宙理工学研究センター （ARC-SAT）

金沢大学発の人工衛星で宇宙を理解する

本学がこれまでに展開してきた宇宙理工学研究を基に，「人工衛星や宇宙探査機を用いた科学」の発展的研究を行うため，2019年7月に本学理工研究域の附属研究センターとして設置しました。先端機器開発，天文学・宇宙物理学，太陽地球系科学の3つの研究部門で構成され，先端的な科学観測により太陽地球系から遠方宇宙までを包括的に理解するための研究拠点形成を目指しています。また，宇宙理工学分野の人材育成に資するために「金沢大学衛星プロジェクト」を推進し，学生が主体となる手作り超小型衛星を開発しています。

医薬保健研究域

AIホスピタル・マクロシグナルダイナミクス研究開発センター

持続可能な地球的健康長寿社会モデルの確立を目指す

本センターは，ゲノム等オミクスデータと医療ビッグデータを統合するデータサイエンスの推進と新規研究・学術分野の創生と発展を目指すとともに，研究成果から健康長寿社会モデルを提唱し，超高齢社会に持続可能な地域ヘルス・エコシステムを実現することを目指して，2020年9月に設置しました。本学の強みである地域に根差した強固なネットワークによる良質なデータセットを活用し，領域横断の独創的な共同研究を推進する研究基盤組織として，未来社会を創造する新たなシーズの創出・実装を目指します。

サピエンス進化医学研究センター

人類の進化と疾患の起源の謎を解明する

革新的な医療の実現に向け，古代人ゲノム研究，データサイエンス，医学生命科学研究を統合し，人類進化プロセスや疾患病態の解明を目指して2023年5月に設置しました。本学の強みである，遺跡から発掘された人骨試料の遺伝子解析などの考古学研究，および脳神経系の進化のメカニズムを明らかにする医学研究を生かし，古代人から現代人に至る進化の仕組みを解明します。現代人に至る進化が現代病の出現につながった可能性があり，進化という視点から疾患の病態理解と治療法の開発を目指します。

附属病院

“地域医療の要”として最先端の医療を実践

加賀藩種痘所（1862年開設）を起源とし，長きにわたり地域の医療を支えてきました。現在，特定機能病院や都道府県がん診療連携拠点病院などに指定されており，医療における地域の拠点としての機能を果たしています。また，診療だけでなく，県内における医療人の育成や臨床研究を積極的に推進しています。基本理念を「最高の医療を提供するとともに，人間性ゆたかな優れた医療人の育成に努めます」とし，患者さんが満足できる良質な医療の提供，将来を担う医療従事者（医師，看護師およびメディカルスタッフ）の育成を行っています。

統合創成研究環

人文・社会科学，自然科学，生命科学が一体となり，総合知を創出

本学の特色ある研究の先鋭化，優位性ある研究領域のさらなる強化，知の融合と多様なセクターとの協働により，未来社会の変革を目指す研究の場を創出し，多様化する社会課題を解決し得る社会貢献・社会実装を実現するため，2022年4月に創設しました。統合創成研究環は，研究推進部門，研究統括部門，研究支援部門で構成されています。このうち研究推進部門には3つの研究群が置かれ，新学術創成研究機構を核とした異分野融合研究を推進することにより，新たな世界トップレベルの研究拠点の形成を目指します。

附置研究所等

がん進展制御研究所（CRI）

がんの先端科学とがん診断・治療への橋渡し

「がんに関する学理およびその応用の研究」を目的に1967年に設置しました。国立大学附置研究所で唯一「がん研究」に特化した研究所です。2010年にはがん研究の中核的拠点として，文部科学省から「がんの転移・薬剤耐性に関わる先導的共同研究拠点」に認定されました。本研究所は「先進がんモデル」，「がん幹細胞」，「がん微小環境」，「がん分子標的」に関わる研究で世界的な成果をあげています。また，2023年からは，「学際領域展開ハブ形成プログラム」に採択され，健康寿命の延伸に向けた分野融合的な学際研究を展開しています。国内外の研究者・研究機関との連携を強化しながら，がん悪性進展機構の解明，革新的な診断・治療法の開発に取り組み，がんの克服を目指します。

ナノ生命科学研究所（WPI-NanoLSI）

これまで誰もみたことのない生命現象を，観る，そして制御する

本学が2017年度に「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」に採択されたことを受け，設置しました。本研究所では，1メートルの10億分の1，ちょうど分子や原子のサイズである「ナノ」の世界を舞台に，ナノスケールのものを観察できる最先端の「走査型プローブ顕微鏡技術」を核として，ナノ計測学，生命科学，超分子化学，数理計算科学における融合研究を推進しています。近い将来，生きた細胞の内部や表層を直接観察，分析，操作することができる世界初の「ナノ内視鏡（ナノプローブ）技術」を開発し，この技術によって生命の誕生や老化，「がん」等の疾患など，未だその実態が解明されていない生命現象の仕組みを根本的に理解し，解明することを目指します。

ナノマテリアル研究所（NanoMaRi）

材料・デバイス技術とナノ計測・計算科学が連携したナノサイエンス

新学術創成研究機構における融合研究推進の顕著な成果であるナノサイエンス分野をさらに加速・発展させるため，2018年8月に設置しました。本研究所では，本学が優位性を持つ材料・デバイス技術にナノ計測，数理計算科学を取入れた統合的アプローチで，社会に貢献できる次世代のイノベーションを先導する機能性材料やデバイスの開発とその実用化を強力に推進します。本研究所には，新規材料開発グループ，創エネデバイス開発グループ，省エネデバイス開発グループ，パワーデバイス開発グループ，光機能材料合成グループ，理論・計算科学グループおよびナノ計測とバイオ・セルロースの連携グループを配置し，国立研究開発法人，企業，海外研究機関との連携により，研究成果の社会実装をより一層加速させます。

設計製造技術研究所（AMTI）

オンデマンドモノづくりのためのスマート設計生産システムの構築

Society 5.0に対応した「オンデマンドモノづくり」を実現するスマート設計生産システムを構築するため，その開発拠点として2019年に設計製造技術研究所（Advanced Manufacturing Technology Institute）が設置しました。本研究所は機械学習・最適化部門とデジタルツイン部門からなる設計技術領域と，金属AM（Additive Manufacturing）技術開発部門，材料・構造開発部門，複合製造技術開発部門からなる製造技術領域から構成され，斬新で柔軟な発想を具現化するための次世代の設計生産技術を開発し，社会実装することを目的とし，産官学の総力を結集してモノづくりの高度化を目指しています。

高度モビリティ研究所（AD-More）

自動運転技術で新たな未来社会を創造する

Society 5.0の実現に向けて，人工知能（AI）や移動ロボット等の活用による自動運転や物流の自動化など，さまざまな分野におけるモビリティ技術の高度化に注目が集まっています。同時に，これらの高度なモビリティ技術を活用した新たなサービス創出にも，大きな期待が寄せられています。このような背景のもと，本学が優位性を有する自動運転に関する取り組みをさらに推し進めるために，2021年4月に本研究所は設置されました。自動運転技術，認識技術，先進車両技術などの研究開発に加え，次世代モビリティサービスの社会導入に向けた課題を整理し，さまざまな付加価値の提供による新たな未来社会の創造を目指しています。

古代文明・文化資源学研究所

文理融合研究による古代文明研究の世界的研究拠点

本学の強みの一つである考古学・文化資源学の研究を格段に進化させるため，2022年4月に設置しました。エジプト，西アジア，中国などの旧大陸の古代文明に新大陸のマヤ文明を加えた，我が国唯一の世界を俯瞰する古代文明の研究所です。学際研究により古代文明の世界的な研究拠点となることを目指し ①世界各地の古代文明の中心地と周縁で世界をリードする発掘調査や考古学研究を展開し，古代文明の研究を通して人類史の解明に寄与する ②革新的文理融合研究により，世界各地の古代文明の起源の解明や，発展と衰退のメカニズムの解明に寄与する ③研究成果を学術分野にとどめることなく広く社会に還元しSDGsの達成に貢献する，という3つの目標を掲げています。

先端観光科学研究所

文理医融合研究による新しい観光科学を追及する

文理医融合の観光科学による総合知を基に，観光の未来変革を追求することで，全ての人々がいつでも安心して観光を楽しむことのできる共存社会の実現と発展に寄与することを目的に設置しました。本研究所は，移動・共感・共有に関するサイエンスとしての観光科学を確立します。さらに，文理医の融合研究から観光科学を革新し，国内外の観光科学研究の国際的拠点となることを目指します。そして，北陸・金沢の地域資源を最大限に活用して観光のイノベーションを促進し，地域とともにサステナブルな観光の実現に貢献します。

附属図書館

前身校からの伝統を新たな総合知の創出へとつなげる知の拠点

中央図書館，自然科学系図書館，医学図書館から構成され，年間約51万7千人の入館者と，8万3千冊の館外貸出があります。蔵書数は194万冊にのぼり，貴重書を含む旧制第四高等学校等の前身校蔵書をほぼそのまま継承しています。学生の多様なニーズに対応した学修環境の提供，研修を受けた大学院生のライブラリー・ラーニング・アドバイザーによるライティング支援，学修支援も行っています。また，国内外の図書館との相互貸借や，北陸3県在住者への直接貸出等，社会人や地域の方にも積極的に学修・研究の機会を提供しています。

学内共同教育研究施設

学術メディア創成センター

デジタル時代を先導し，本学のエマージングメディアを創成

本学のデジタルトランスフォーメーションを戦略的に遂行するための拠点として，学術システム部門，教育メディア部門から構成されています。また，2部門をまたいで教育DX推進タスクフォースを組織し，XRコンテンツの作成，VFXシステムを用いた撮影・配信を行っています。情報システム管理室では，ネットワークや情報サービス（アカンサスポータル，電子メール，統合認証システム）の管理・運用のほか，パソコン相談カウンターでICTに関する支援業務を行っています。

学内共同教育研究施設

環日本海域環境研究センター

越境汚染に関連した国際共同研究拠点

環日本海域から東アジアにおける自然現象と人間活動により生ずる種々の環境問題の解決を目指し設置しました。2016年4月には、文部科学省共同利用・共同研究拠点に「越境汚染に伴う環境変動に関する国際共同研究拠点」として認定され、能登半島地域の実験フィールドと国際共同観測ネットワークを広く学内外に開放し、大気―海洋―陸域を統合した越境汚染物質の動態解析モデルの確立およびヒトの健康・生態系への影響評価と将来予測について国内外の教育研究機関と共同調査・研究を展開しています。臨海実験施設は2012年7月に文部科学省教育関係共同利用拠点に認定され、共同利用・共同研究拠点の成果を取り入れた公開臨海実習等を通して全国の大学教育に貢献しています。

疾患モデル総合研究センター

動物モデルから患者さんへ 金沢大学におけるハブとなる研究組織

研究高度化部門（疾患モデル、疾患解析プローブ・ケミカル、疾患オミクス分野）と実験支援部門（学内共同教育研究施設）で構成されています。実験支援部門では、遺伝子組換え生物、動物、RI、核燃料、機器を用いた実験を適正に行うための安全管理を行い、研究高度化部門では、疾患モデル生物の作出と網羅的な解析により研究への貢献を行います。

子どものこころの発達研究センター

子どものこころを健やかに育てるための国際的研究拠点

子どものこころと脳の発達およびその障がいに関する高度な知識と技能を修得し、自ら課題を発見し、解決する能力を備えた専門家の養成に努めています。基礎研究から医療・支援までのさまざまな背景を持つ研究者、臨床家が集い、各自の専門性を活かしながらチーム丸となって、子どものこころの課題の解決に挑戦しています。

先進予防医学研究センター

「0次予防と個別化予防研究」を地域と世界で展開する

個人や環境の特性を網羅的に分析・評価し、0次予防から3次予防までを包括した「個別化予防」の実践を目指します。本学のほか、連携協定先の千葉大学、長崎大学の各センターと協定し、3大学それぞれの強みを有する地域住民のコホート研究^(※)を推進するとともに、教育にも生かしています。

※共通の特性を持つ集団を追跡して、その集団からどのような疾病が発生し、また健康状態が変化したかなどを観察して各種要因との関連を明らかにしようとする研究。

環境保全センター

教育・研究活動に伴う公害を防止し、生活環境の安全確保を図る

本学における環境分野での研究、教育の推進を図るために、本学のさまざまな環境関連委員会において中心的な役割を担っています。また、本学の化学物質管理システムの管理運営を行うとともに、研究、教育、医療活動等に伴い発生する廃液・廃棄物に含まれる重金属・有機溶媒などの収集および処理委託業務を行っています。

未来知実証センター

産学官金連携でのオープンイノベーションと研究成果の社会実装を推進

未来社会にインパクトを与えるイノベーションハブとして、社会の発展に寄与するために2023年に設置しました。本センターが中心となって、未来の課題を探索し克服する知恵「未来知」の実証研究を推進します。また、産学官金連携によるオープンイノベーションと研究成果の社会実装を加速することで、未来に向けた社会・スマートシティの共創を目指します。

国際日本研究センター

国際的な視点から日本を研究し、人材を育成する

国際的視野・知見からの日本研究、日本語教育研究、日本文化・日本社会・歴史等の日本研究の分野における国際研究拠点を形成するとともに、多文化共生の実践的研究、外国人留学生の支援、研究成果に基づく教育プログラムの構築などにより人材育成に資することを目指します。

保健管理センター

心と体の健康のトータルサポートからウェルネス向上を目指す

学生および教職員の心身の健康を向上させるためのサービスを提供しています。看護師や保健師が常駐し、保健指導や簡単な手当てをしています。医師による健康相談や公認心理師による学生相談も受けることができます。また、学生のウェルネス向上と成長を目指した学生支援プログラムを提供しています。安全衛生業務も担当しています。

グローバル人材育成推進機構（O-GHRD）

グローバル人材育成に向けた組織横断的な人材育成プログラムの展開

本学の教育・研究・国際の各戦略を踏まえ、グローバルに活躍できる人材を育成するため、学長直轄のグローバル人材育成推進機構を設置しています。本機構では、「知識集約型社会を支える人材育成事業」や「地域基幹産業を再定義・創成する人材創出プログラム（ENGINE）」など初等中等教育や学士課程から大学院に至るまで、幅広く組織横断的な人材育成プログラムを構築・運用しています。

新学術創成研究機構（InFiniti）

新たな学術領域の創出を目指して

本学に優位性のある研究分野のさらなる強化、分野融合型研究の一層の進展および国際頭脳循環の継続的拡充を一体的に推進し、革新的な研究成果の創出と新しい学術領域の創成に繋げることを目的とし2015年に設置しました。「真理探究」「次世代医療創成」「グリーンイノベーション」の3つの研究コアに計16のユニットを配置し、学際的研究を推進しています。その研究成果を基盤に教育を支援し、学際性・総合性・国際性を有する若手研究者を育成しています。

先端科学・社会共創推進機構（FSSI）

研究支援、産学官連携、地域連携活動を一体化して推進

部局等を越えた学際的融合新領域の創出により、本学の教育研究の一層の高度化、基礎研究から応用研究に至る全領域の研究支援、産学官連携および地域連携活動を一体化した社会共創活動を推進することで、本学の教育研究の活性化と社会貢献に資することを目的としています。総合マネジメント部門と関連施設等で構成され、総合マネジメント部門には教員、URA（リサーチ・アドミニストレーター）が所属しています。本学の社会共創の核となるさまざまなプロジェクトの推進を支援し、研究成果の社会還元を促進します。

インキュベーション施設

インキュベーション機能を強化し、産学連携業務の推進を図る

国立大学等におけるインキュベーション機能の強化を目的として、全国の国立大学13校に設置されており、北陸地区では金沢大学に設置されました。金沢大学における産学連携業務の推進および本学のシーズ(本学に属する知的財産権および本学研究者の研究成果)を生かしたベンチャー起業育成のため必要な場を提供しています。

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（VBL）

起業により新たなビジネスの創造を目指す教員・学生をサポート

若手研究者等の知的活力を最大限に活用し、ベンチャー・ビジネスの萌芽となる独創的な研究開発を推進するとともに、本学と密接な関係を有するベンチャー企業の支援を行っています。事業化ならびに商品化を目指す研究の支援や個別提案に対するコンサルティングなど、学内の知見・発想が社会と連携し、また社会のニーズに対応できるよう活動しています。

バイオマス・グリーンイノベーションセンター（BGIC）

人の好奇心を形に、地球に自然の色彩を

社会課題の解決と循環型社会の実現を目指した共創研究施設として2023年4月に本格稼働しました。異分野融合、異業種連携によるオープンイノベーションで新たな価値の共創を目指しています。持続可能な循環型社会の構築に向けて、バイオマスによる石油由来素材からの転換や環境問題に対する取り組み（グリーンイノベーション）を推進します。

ダイバーシティ推進機構

皆が志高く自らの能力を最大限発揮できるダイバーシティ環境を目指す

本学のすべての構成員が、年齢、国籍、障がいの有無、性別、性的指向、性自認その他の個性を互いに認め合い、一人ひとりの個性と能力が十分発揮できる教育・研究・就業環境の実現に向け、2022年4月に設置されました。障がい学生支援室をはじめ関連部署と連携しながら、より包括的なダイバーシティ&インクルージョン推進の取り組みをすすめています。

学内共同利用施設

極低温研究室

液体ヘリウム、液体窒素を使用する共通実験室を備え、磁化測定装置や比熱測定装置などが共同利用されています。ヘリウム液化機、液体窒素貯槽を備えており、学内の多くの部局に液体ヘリウム、液体窒素を供給するとともに、低温実験に必要な技術的な指導や、高圧ガス保安法に基づく安全講習も毎年実施しています。

資料館

1989年に設置、2022年に埋蔵文化財調査センターと統合。本学および前身校関係の学術標本・大学史料・埋蔵文化財を収集・整理・保存・公開しています。学内展示や学外での展覧会等を開催すると共に、教育活動に協力し、博物館実習施設としての役割も担っています。なお、当館は、博物館法に定める「指定施設」です。

技術支援センター

本学における技術教育および研究支援を行うとともに、地域社会に対する技術支援・技術啓発等の社会貢献を行うことを目的とした学内共同利用施設です。汎用機から最先端の工作機械まで数多くの機器を有し、学生の工作実習やものづくり支援、実験装置の設計・製作や技術開発相談、小中学生を対象としたものづくり教室等の活動を行っています。

能登里山里海未来創造センター

総合大学である本学の英知を集結し、地域・自治体・企業との協調・共創と文理医の融合により、中長期的視点から、能登における教育、医療、文化、産業の復興・再生そして継続的発展を強力に推進するため、2024年1月に設置しました。令和6年能登半島地震からの復旧・復興に向け、被災地に立地する国立大学として、被災地に寄り添い、自治体などと協働し震災からの復旧・復興および支援に全力を尽くします。

高大接続コア・センター

国際社会を牽引する多様な能力を秘めた人材を見出し、受け入れ、育成するために設置しました。「金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS)」の理念に基づく入学者選抜方法等の調査・開発や、高大接続プログラムの開発・実施・評価が中心的業務です。この他、国内外の大学入試制度や高大接続の取り組み等を調査しています。

教学マネジメントセンター

本学が掲げる基本理念と目標の実現に資するべく、本学の教育・学修の充実と発展を図り、全学的な教学マネジメントを推進する組織です。内部質保証の仕組みを確立し、学修者本位の教育の実現を図るための教育改善に取り組むとともに、高等教育に関する調査研究・開発、全学FD支援、教員のスキルアップ支援等を行っています。

教職総合支援センター

学校教育学類附属教育実践支援センターを2022年4月に改組し設置しました。これまで教育実践支援センターが行ってきた学校支援にかかわる業務に加え、県や市町の教育委員会や県教員総合研修センター、いしかわ師範塾などと連携し、教員を目指す学生のサポートや各学類の教職課程の支援などを行います。

数理・データサイエンス・AI教育センター

本学の数理・データサイエンス・AI教育に関する企画運営等を統括し、全学でデータサイエンス特別プログラムを推進するとともに学域および研究科を支援します。併せて、他大学や産業界とも連携し北信越ブロックにおける数理・データサイエンス・AI教育の充実にも寄与することで、文部科学省の選定校としてデジタル推進人材育成に貢献します。

その他の施設等

学生留学生宿舍「先魁」「北溟」

国際交流を推進し、グローバル人材の育成を目的とした日本人学生と外国人留学生が1つのユニット（男女別）で共同生活するシェアハウスタイプの宿舍です。

国際交流会館

外国人留学生と外国人研究者のための宿舍です。78室の単身用居室と多目的室・ラウンジなどの共有スペースがあります。

金沢大学創立五十周年記念館「角間の里」

金沢大学創立五十周年記念事業の一つとして、2005年に白峰村の民家（山口新十郎家、築300年）を移築しました。自然環境に恵まれた角間キャンパスでの、教育、研究、地域連携などを目的とした行事に利用されています。

金沢大学東京事務所

本学の首都圏における学生の就職活動の拠点、教職員の活動拠点、各同窓会の連絡拠点や交流の場として利用されています。

能美学舎

能美市の自然豊かなフィールドにある研修施設です。会議室、体育館などを備え、研究室の発表会や各種正課外活動など多目的な用途での利用されています。

金沢大学五箇山セミナーハウス「助市」

2016年に世界文化遺産である五箇山相倉合掌造り集落（富山県南砺市）に開所しました。合掌造り茅葺きの建物には、多目的スペースや和室のほか、シャワールームも完備されており、教育、研究、社会貢献活動の拠点として幅広く活用されています。

金沢大学金沢駅前サテライト／金沢大学珠洲サテライト／金沢大学小松サテライト

金沢駅金沢港口前に駅前サテライトを、能登、加賀地区にもそれぞれサテライト施設を設け、地域と連携した幅広い学びと交流の場を提供しています。

能登学舎

能登地域における大学と地域の教育研究拠点として開設しました。能登半島の先端に位置し、前方には海を臨み、後方には里山が広がります。地域をフィールドに、人材育成や地域活性化に関する研究、環境研究などのユニークな取り組みを行っています。

淵源

1862年 加賀藩彦三種痘所

役職員数

3,984人

予算

総額 71,953 (2024) 百万円

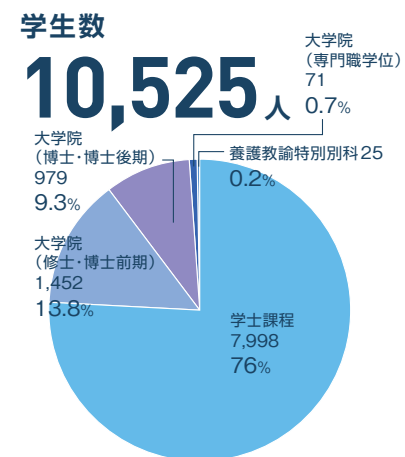
面積

約 241 万㎡
角間キャンパス2,008,565㎡
宝町・鶴間キャンパス151,053㎡
その他253,332㎡

組織

4学域・ 20学類等	融合学域 先端学類, 観光デザイン学類, スマート創成科学類
	人間社会学域 人文学類, 法学類, 経済学類, 学校教育学類, 地域創造学類, 国際学類
	理工学域 数物科学類, 物質化学類, 機械工学類, フロンティア工学類, 電子情報通信学類, 地球社会基盤学類, 生命理工学類
	医薬保健学域 医学類, 薬学類, 医薬科学類, 保健学類
7研究科	国際基幹教育院総合教育部
	人間社会環境研究科
	自然科学研究科
	医薬保健学総合研究科
	先進予防医学研究科
	新学術創成研究科
	法学研究科
教職実践研究科	
その他	附属病院, 附置研究所等

教育



学士課程
入学者数
1,905人
北陸三県出身 約45.4%

学士課程
卒業者数
1,768人
累計: 101,846人
学士課程卒業者の約33.9%が大学院等へ進学

大学院
修了者数
840人
累計: 30,269人

蔵書数
194万冊
電子ジャーナル 10,409 タイトル

研究

学術論文数
12,904件
(2014.1-2024.2)

学術論文被引用数
195,587件
(2014.1-2024.2)
国内大学18位, 世界1171位,
薬学・毒性学分野 国内大学13位,
地球科学分野 国内大学11位,
神経科学・行動科学分野 国内大学16位
(クオリバート社Essential Science Indicatorsによる)

科研費
2,529 百万円
1,014件 (2023実績)

外部資金
共同研究 361件 / 850百万円
受託研究 307件 / 2,795百万円
寄附金 2,466件 / 1,193百万円
(2023実績)

特許出願件数
59件
(2023実績)

国際

交流協定校数
341 機関
(63か国1地域)
大学間交流協定校241校
(58か国1地域),
部局間交流協定校100機関
(32か国1地域)



外国人留学生数
1,087人
(2023年度累計実績)

海外派遣学生数
423人 (2023実績)



外国人研究者等受入数
244人
(2023実績)



日本人研究者等海外派遣数
912人
(2023実績)



医療

病床数
830床

外来患者数(1日平均)
1,488人
(2023実績)

入院患者数(1日平均)
622人
(2023実績)

社会貢献

自治体等との協定数
38件
(令和6年5月1日時点)

公開講座数
39講座
(2024)

大学ランキング

Quacquarelli Symonds Ltd.
QS Asia University Ranking 2024 :
国内20位 アジア圏 204位
QS World University Ranking 2025 :
世界 901-950位
Times Higher Education
THE インパクトランキング 2024 : 401-600位

役職員

役職員

役員	
学長	和田 隆 志
理事（総括・大学改革・教育・情報担当）・副学長	森 本 章 治
理事（研究・社会共創・大学院支援担当）・副学長	中 村 慎 一
理事（企画評価・地域共創・広報戦略担当）・副学長	三 浦 要
理事（附属病院・同窓会・大学基金担当）・副学長	谷内江 昭宏
理事（総務・財務・施設担当）・副学長	滝 波 泰
理事（産学連携・高等教育改革担当）	中 沢 正 隆
理事（ダイバーシティ経営担当）	山 岸 雅 子
監事	浅 野 哲 夫
監事	村 本 健 一 郎
副学長	
副学長（国際担当）	林 宜 仁
副学長（教育改革・企画評価担当）	尾 島 恭 子
副学長（産学連携・研究（総括）担当）	松 本 邦 夫
副学長（研究力強化・同窓会・大学基金担当）	絹 谷 清 剛
副学長（ダイバーシティ推進担当）	長 谷 部 徳 子
副学長（附属病院改革担当）	吉 崎 智 一
副学長（産学連携担当）	加 納 重 義
学長特別補佐	
	志 村 恵
学長補佐	
上席学長補佐（法務・知財担当）	三 浦 久 徳
学長補佐（教育改革・学修支援担当）	片 岡 邦 重
学長補佐（教育改革・学修支援担当）	合 田 篤 子
学長補佐（入試・学生募集・高大院接続・学生支援担当）	尾 崎 紀 之
学長補佐（キャリア形成支援・リスニング教育担当）	猪 熊 孝 夫
学長補佐（企画評価・教育改革・学生募集・高大院接続担当）	谷 内 通
学長補佐（入試・学生募集・高大院接続・大学院改革担当）	本 田 光 典
学長補佐（入試・学生募集・高大院接続・大学院改革担当）	安 部 聡 一 郎
学長補佐（入試・学生募集・高大院接続・大学院改革担当）	本 所 恵
学長補佐（産学官金連携人材育成・角間里山担当）	佐 川 哲 也
学長補佐（研究力強化・社会共創推進担当）	坂 本 二 郎
学長補佐（研究力強化・研究支援・産学連携担当）	長 谷 川 浩
学長補佐（研究力強化担当）	中 田 光 俊
学長補佐（研究力強化担当）	後 藤 典 子
学長補佐（研究力強化担当）	吉 村 優 子
学長補佐（研究力強化・ダイバーシティ推進担当）	森 下 英 理 子
学長補佐（地域共創担当）	篠 田 隆 行
学長補佐（企画・広報・ブランディング担当）	瀨 戸 章 文
学長補佐（ダイバーシティ推進担当）	柿 川 真 紀 子
学長補佐（ダイバーシティ推進・研究支援・国際推進担当）	大 黒 多 希 子
学長補佐（ハラスメント防止・ダイバーシティ推進担当）	高 山 知 明
学長補佐（国際渉外・SDGs担当）	ママーウア アイダ
学長補佐（国際推進担当）	南 コニ一
教育研究評議会評議員	
学長	和田 隆 志
理事（総括・大学改革・教育・情報担当）・副学長	森 本 章 治
理事（研究・社会共創・大学院支援担当）・副学長	中 村 慎 一
理事（企画評価・地域共創・広報戦略担当）・副学長	三 浦 要
理事（附属病院・同窓会・大学基金担当）・副学長	谷内江 昭宏
副学長（教育改革・企画評価担当）	尾 島 恭 子
副学長（ダイバーシティ推進担当）	長 谷 部 徳 子
融合研究域長	飯 山 宏 一
人間社会研究域長	山 本 卓
理工研究域長	松 本 宏 一
医薬保健研究域長	堀 修
先導学類長	中 山 晶 一 郎
観光デザイン学類長	佐 無 田 光
スマート創成科学類長	山 本 茂
人文学類長	堀 田 優 子
法学類長	合 田 篤 子
経済学類長	星 野 伸 明
学校教育学類長	辻 井 宏 之
地域創造学類長	高 橋 涼 子
国際学類長	中 野 涼 子
数物科学類長	佐 藤 政 行
物質化学類長	片 岡 邦 重

教育研究評議会評議員	
機械工学類長	石 川 和 宏
フロンティア工学類長	汲 田 幹 夫
電子情報通信学類長	八 木 谷 聡
地球社会基盤学類長	由 比 政 年
生命理工学類長	伊 藤 正 樹
医学類長	山 本 靖 彦
薬学類長	加 藤 将 夫
医薬科学類長	田 嶋 敦
保健学類長	毎 田 佳 子
大学院人間社会環境研究科長	小 島 治 幸
大学院自然科学研究科長	瀨 戸 章 文
大学院医薬保健学総合研究科長	河 崎 洋 志
大学院先進予防医学研究科長	田 嶋 敦
大学院新学術創成研究科長	坂 本 二 郎
大学院法学研究科長	足 立 英 彦
大学院教職実践研究科長	吉 川 一 義
国際基幹教育院長	垣 内 康 孝
附属病院長	吉 崎 智 一
附置研究所等代表（がん進展制御研究所長）	鈴 木 健 之
附置研究所等代表（ナノマテリアル研究所長）	水 野 元 博
附属図書館長	杉 山 欣 也
センター長会議代表（環日本海域環境研究センター長）	長 尾 誠 也
新学術創成研究機構長	坂 本 二 郎
学務部長	松 本 佳 子
融合系事務部長	守 田 富 美 江
経営協議会委員	
学長	和田 隆 志
理事（総括・大学改革・教育・情報担当）・副学長	森 本 章 治
理事（総務・財務・施設担当）・副学長	滝 波 泰
理事（ダイバーシティ経営担当）	山 岸 雅 子
融合研究域長	飯 山 宏 一
人間社会研究域長	山 本 卓
理工研究域長	松 本 宏 一
医薬保健研究域長	堀 修
附属病院長	吉 崎 智 一
兼道DVAホールディングス 代表取締役 元 国立教育政策研究所 所長 元 文部科学省生涯学習政策課 課長	有 松 育 子
コマツ取締役会長	大 橋 徹 二
関西大学 東京センター長 元 日本私立学校振興 共済事業団 理事長 元 関西大学 学長	河 田 悌 一
北海道教育大学 理事（非常勤） 前 愛知教育大学 学長	後 藤 ひ と み
日本学術振興会 顧問 元 東北大学総長	里 見 進
金沢市副市長	新 保 博 之
MVP株式会社 代表取締役	武 田 泉 穂
石川県副知事	徳 田 博
ファイザー株式会社 代表取締役社長	原 田 明 久
ヤマトホールディングス株式会社 参与	山 内 雅 喜
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構分子科学研究所 所長	渡 辺 芳 人
未来創成教育環	
環長	森 本 章 治
融合学域	
学域長	飯 山 宏 一
先導学類長	中 山 晶 一 郎
観光デザイン学類長	佐 無 田 光
スマート創成科学類長	山 本 茂
人間社会学域	
学域長	山 本 卓
人文学類長	堀 田 優 子
法学類長	合 田 篤 子
経済学類長	星 野 伸 明
学校教育学類長	辻 井 宏 之
附属幼稚園長	西 多 由 貴 江
附属小学校長	盛 一 純 平
附属中学校長	戸 水 吉 信
附属高等学校長	南 波 聡
附属特別支援学校長	中 澤 宏 一
地域創造学類長	高 橋 涼 子
国際学類長	中 野 涼 子

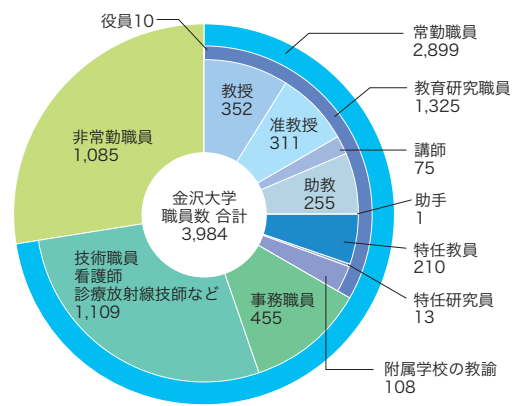
理工学域	
学域長	松 本 宏 一
数物科学類長	佐 藤 政 行
物質化学類長	片 岡 邦 重
機械工学類長	石 川 和 宏
フロンティア工学類長	汲 田 幹 夫
電子情報通信学類長	八 木 谷 聡
地球社会基盤学類長	由 比 政 年
生命理工学類長	伊 藤 正 樹
医薬保健学域	
学域長	堀 修
医学類長	山 本 靖 彦
薬学類長	加 藤 将 夫
附属薬用植物園長	佐 々 木 陽 平
医薬科学類長	田 嶋 敦
保健学類長	毎 田 佳 子
国際基幹教育院	
教育院長	垣 内 康 孝
GS教育系長	滝 野 隆 久
外国語教育系長	小 熊 猛
大学院	
人間社会環境研究科長	小 島 治 幸
自然科学研究科長	瀨 戸 章 文
医薬保健学総合研究科長	河 崎 洋 志
先進予防医学研究科長	田 嶋 敦
新学術創成研究科長	坂 本 二 郎
法学研究科長	足 立 英 彦
教職実践研究科長	吉 川 一 義
融合研究域	
研究域長	飯 山 宏 一
融合科学系長	宮 地 利 明
人間社会研究域	
研究域長	山 本 卓
人文学系長	堀 田 優 子
法学系長	合 田 篤 子
経済学経営学系長	星 野 伸 明
学校教育学系長	辻 井 宏 之
地域創造学系長	高 橋 涼 子
国際学系長	中 野 涼 子
附属グローバル文化・社会研究センター長	杉 山 欣 也
理工研究域	
研究域長	松 本 宏 一
数物科学系長	佐 藤 政 行
物質化学系長	片 岡 邦 重
機械工学系長	石 川 和 宏
フロンティア工学系長	汲 田 幹 夫
電子情報通信学系長	八 木 谷 聡
地球社会基盤学系長	由 比 政 年
生命理工学系長	伊 藤 正 樹
先端宇宙理工学研究センター長	八 木 谷 聡
医薬保健研究域	
研究域長	堀 修
医学系長	山 本 靖 彦
薬学系長	加 藤 将 夫
保健学系長	毎 田 佳 子
附属AIホスピタル・マクロシグナルダイナミクス研究開発センター長	崔 吉 道
附属サビエンス進化医学研究センター長	河 崎 洋 志
附属病院	
病院長	吉 崎 智 一
統合創成研究環	
環長	中 村 慎 一
がん進展制御研究所	
所長	鈴 木 健 之
ナノ生命科学研究所	
所長	福 間 剛 士

ナノマテリアル研究所	
所長	水 野 元 博
設計製造技術研究所	
所長	浅 川 直 紀
高度モビリティ研究所	
所長	立 矢 宏
古代文明・文化資源学研究所	
所長	河 合 望
先端観光科学研究所	
所長	堤 敦 朗
附属図書館	
館長	杉 山 欣 也
医学系分館長	藤 永 由 佳 子
学内共同教育研究施設	
学術メディア創成センター長	笠 原 禎 也
環日本海域環境研究センター長	長 尾 誠 也
疾患モデル総合研究センター長	大 黒 多 希 子
子どものこころの発達研究センター長	横 山 茂
先進予防医学研究センター長	篁 俊 成
環境保全センター長	山 岸 忠 明
未来知実証センター長	中 村 慎 一
国際日本研究センター長	林 宜 仁
保健管理センター	
センター長	吉 川 弘 明
グローバル人材育成推進機構	
機構長	和 田 隆 志
新学術創成研究機構	
機構長	坂 本 二 郎
先端科学・社会共創推進機構	
機構長	中 村 慎 一
ダイバーシティ推進機構	
機構長	長 谷 部 徳 子
学内共同利用施設	
極低温研究室長	吉 田 靖 雄
資料館長	足 立 拓 朗
技術支援センター長	喜 成 年 泰
高大接続コア・センター	
センター長	本 田 光 典
教学マネジメントセンター	
センター長	尾 島 恭 子
教職総合支援センター	
センター長	森 本 章 治
数理・データサイエンス・AI教育センター	
センター長	谷 内 通
能登里山里海未来創造センター	
センター長	谷 内 江 昭 宏
附属学校園	
統括長	大 村 雅 章
事務局	
事務局長	滝 波 泰
特命部長（学務改革担当）	西 出 良 一
総務部長	黒 澤 修 身
財務部長	鈴 木 慰 人
施設部長	加 藤 圭 治
研究推進部長	森 義 浩
社会共創推進部長	枡 儀 充
学務部長	松 本 佳 子
国際部長	黒 澤 修 身
融合系事務部長	守 田 富 美 江
人間社会系事務部長	松 本 芳 江
理工系事務部長	田 端 尚 史
医薬保健系事務部長	元 谷 内 洋 志
病院部長	北 村 久 美 子
総合技術部	
総合技術部長	長 谷 川 浩

役職員

役職員数

■金沢大学で働く役職員数とその内訳



■役職員の男女比率

単位：人
令和6年5月1日時点

	男性	女性	合計
役員	9 (90%)	1 (10%)	10
教育研究職員	1,035 (78%)	290 (22%)	1,325
事務職員	190 (42%)	265 (58%)	455
技術職員	238 (21%)	871 (79%)	1,109
非常勤職員	346 (32%)	739 (68%)	1,085

■常勤職員

単位：人
令和6年5月1日現在

区分	役員	教育研究職員								事務職員	技術職員	合計
		教授	准教授	講師	助教	助手	計	特任教員	特任研究員			
役員	10											10
融合研究域		15	11	4	3		33	2		1		36
人間社会研究域		101	63	19	1	1	185	10	5			200
理工研究域		75	90	6	38		209	13	3			225
医薬保健研究域		83	61	5	87		236	6	2	1	1	246
国際基幹教育院		14	22	11	4		51	7	2			60
大学院医薬保健学総合研究科								13				13
附属病院		2	9	29	83		123	61			1,011	1,195
がん進展制御研究所		8	10		14		32	4				36
ナノ生命科学研究所		11	8		1		20	37	1	1	2	61
ナノマテリアル研究所		5	2		4		11	7				18
設計製造技術研究所		5	2		2		9					9
高度モビリティ研究所		2	1				3	2				5
古代文明・文化資源学研究所		1	1		1		3	2				5
先端観光科学研究所		1					1	3				4
学術メディア創成センター		4	3		2		9	1			3	13
環日本海域環境研究センター		6	6		4		16	1				17
疾患モデル総合研究センター		2	5		4		11					11
子どものこころの発達研究センター		1	2				3	7				10
先進予防医学研究センター			1		1		2	1				3
環境保全センター			1				1					1
未来知実証センター								2				2
国際日本研究センター		4	4				8	4				12
保健管理センター		2			3		5				4	9
新学術創成研究機構		7	5		2		14	2				16
先端科学・社会共創推進機構		2	4		1		7	19		1		27
ダイバーシティ推進機構								1				1
資料館								1			1	2
高大接続コア・センター								3				3
教学マネジメントセンター		1					1	1				2
教職総合支援センター					1		1					1
附属学校園										108		108
事務局										450	28	478
総合技術部											60	60
合計	10	352	311	75	255	1	994	210	13	108	455	2,899

財務状況

■令和5事業年度決算

■貸借対照表

令和6年3月31日
(単位：百万円)

科目	金額
■資産の部	
I. 固定資産	
1. 有形固定資産	106,436
2. 無形固定資産	269
3. 投資その他の資産	2,996
固定資産合計	109,702
II. 流動資産	
現金および預金	15,905
未収入金	8,067
その他の流動資産	845
流動資産合計	24,816
資産合計	134,518

科目	金額
■負債の部	
I. 固定負債	18,075
II. 流動負債	25,492
負債合計	43,567
■純資産の部	
I. 資本金	56,264
II. 資本剰余金	8,679
III. 利益剰余金	26,008
純資産合計	90,951
負債純資産合計	134,518

■損益計算書

令和5年4月1日～令和6年3月31日
(単位：百万円)

科目	金額
経常費用	62,659
業務費	61,387
一般管理費	1,208
その他費用	64
経常収益	63,731
運営費交付金収益	15,904
学生納付金収益	6,201
附属病院収益	31,694
その他収益	9,933
経常利益	1,072
臨時損失	82
臨時利益	-
当期純利益	990
目的積立金取崩額	337
当期総利益	1,328

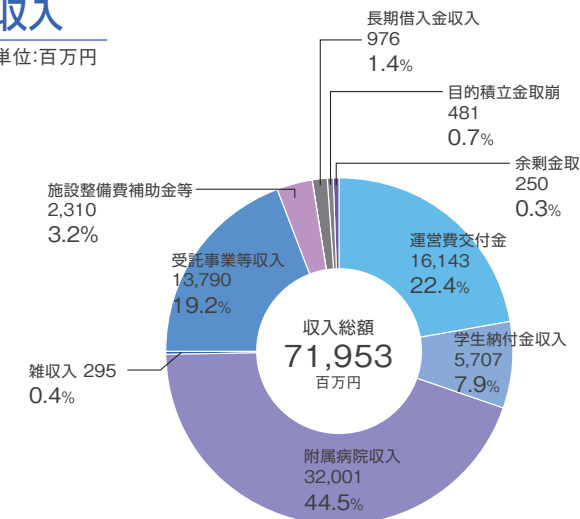
※百万円未満を四捨五入して記載しているため、合計が一致しない場合があります。
※文部科学大臣の承認を受けるまでは、金額の変更が生じることがあります。

2024年度予算

※グラフの「%（パーセント）」表記は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計値が「100%」にならない場合があります。

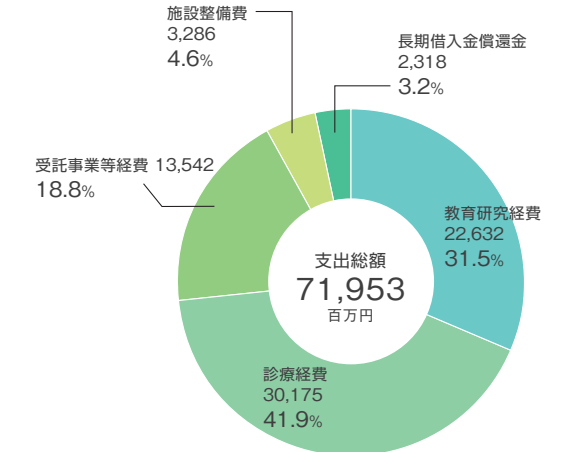
収入

単位：百万円



支出

単位：百万円



人件費の総額は、25,960百万円であり、支出総額の36.1%を占める

学域・学類・研究科等

学士

学域・学類等		コース・専攻等			
融合学域	先導学類				
	観光デザイン学類				
	スマート創成科学類				
人間社会学域	人文学類				
	法学類	公共法政策コース	企業関係法コース	総合法学コース	
	経済学類	エコノミクスコース	グローバル・マネジメントコース		
	学校教育学類	共同教員養成課程			
	地域創造学類				
	国際学類				
理工学域	数物科学類				
	物質化学類				
	機械工学類	機械創造コース	機械数理コース	エネルギー機械コース	
	フロンティア工学類				
	電子情報通信学類	電気電子コース	情報通信コース		
	地球社会基盤学類	地球惑星科学コース	土木防災コース	環境都市コース	
	生命理工学類	生物科学コース	海洋生物資源コース	バイオ工学コース	
医薬保健学域	医学類				
	薬学類				
	医薬科学類	生命医科学コース	創薬科学コース		
	保健学類	看護学専攻 作業療法学専攻	診療放射線技術学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻
国際基幹教育院総合教育部		文系	理系		

大学院

研究科・専攻		コース・領域・プログラム等			
人間社会環境研究科 (博士前期課程)	人文学専攻	人間科学コース	歴史学コース	言語・文学コース	文化資源学コース
	経済学専攻	経済理論・政策コース	国際社会・経済コース	経営情報コース	
	地域創造学専攻	地域創造学コース	教育支援開発学コース		
	国際学専攻	国際関係・地域研究コース	日本語教育・日本文化研究コース		
人間社会環境研究科 (博士後期課程)	人間社会環境学専攻	人文学コース	法学・政治学コース	社会経済学コース	
自然科学研究科 (博士前期課程)	数物科学専攻	数学コース	物理学コース	計算科学コース	
	物質化学専攻	化学コース	応用化学コース		
	機械科学専攻	設計生産システムプログラム	先端材料プログラム	応用数理プログラム	プロセス革新プログラム
	フロンティア工学専攻	知能機械プログラム	人間機械共生プログラム	化学工学プログラム	スマート計測制御プログラム
	電子情報通信学専攻				
	地球社会基盤学専攻	地球惑星科学コース	社会基盤工学コース		
	生命理工学専攻	生物科学コース	バイオ工学コース		
自然科学研究科 (博士後期課程)	数物科学専攻				
	物質化学専攻				
	機械科学専攻				
	フロンティア工学専攻				
	電子情報通信学専攻				
	地球社会基盤学専攻				
生命理工学専攻					
医薬保健学総合研究科 (修士課程)	医科学専攻				
医薬保健学総合研究科 (博士課程)	医学専攻	脳・神経医学領域 内科系医学領域	がん医学領域 外科系医学領域	循環医学領域 生殖・発達医学領域	社会環境医学領域
	薬学専攻	医薬科学			
医薬保健学総合研究科 (博士前期・後期課程)	創薬科学専攻				
	保健学専攻	看護科学領域	医療科学領域	リハビリテーション科学領域	
先進予防医学研究科 (博士課程)	先進予防医学共同専攻	生体システム領域	代謝領域	高次機能領域	微生物・環境領域
新学術創成研究科 (博士前期・後期課程)	融合科学共同専攻				
	ナノ生命科学専攻				
法学研究科 (修士課程)	法学・政治学専攻	研究コース	高度専門職コース		
法学研究科 (専門職学位課程)	法務専攻	標準コース	短縮コース		
教職実践研究科 (専門職学位課程)	教職実践高度化専攻	探究教育領域	共生教育領域		

学生数

単位：人

令和6年5月1日現在

※は従前の学類を示す。

() は女子学生数を内数で示す。* は女子学生の比率を示す。

学士

学域等	学類等	入学定員	在籍者数						計
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	
融合学域	先導学類	55	53(29)	55(22)	57(15)	65(19)			230(85)
	観光デザイン学類	55	54(36)	22(13)	30(15)				106(64)
	スマート創成科学類	55	56(12)	21(8)					77(20)
	計	165	163(77)	98(43)	87(30)	65(19)			413(169) * 40.9%
人間社会学域	人文学類	138	130(89)	141(86)	145(89)	190(108)			606(372)
	法学類	150	144(60)	150(73)	154(63)	193(78)			641(274)
	経済学類	131	117(40)	139(52)	132(51)	160(62)			548(205)
	学校教育学類共同教員養成課程	85	83(53)	88(63)	85(59)				256(175)
	地域創造学類	83	75(40)	88(49)	88(45)	110(60)			361(194)
	国際学類	81	74(62)	84(73)	84(64)	143(111)			385(310)
	学校教育学類*					104(53)			104(53)
	計	668	623(344)	690(396)	688(371)	900(472)			2,901(1,583) * 54.6%
理工学域	数物科学類	78	74(7)	78(9)	86(8)	112(10)			350(34)
	物質化学類	78	74(26)	83(29)	87(22)	93(33)			337(110)
	機械工学類・フロンティア工学類・電子情報通信学類	313	284(35)						284(35)
	機械工学類	94		93(4)	108(6)	160(5)			361(15)
	フロンティア工学類	103		108(10)	114(6)	124(9)			346(25)
	電子情報通信学類	116		81(9)	95(7)	102(4)			278(20)
	地球社会基盤学類	94	89(24)	95(18)	108(21)	120(26)			412(89)
	生命理工学類	56	51(23)	56(23)	62(16)	64(24)			233(86)
	機械工学類*					5(1)			5(1)
	電子情報学類*					2(0)			2(0)
計	619	572(115)	594(102)	660(86)	782(112)			2,608(415) * 15.9%	
医薬保健学域	医学類	112	116(45)	128(38)	113(40)	115(32)	119(27)	123(38)	714(220)
	薬学類	65	68(35)	71(36)	62(34)	64(41)			265(146)
	医薬科学類	18	19(6)	22(9)	17(2)	14(6)			72(23)
	保健学類	189	190(144)	190(148)	193(144)	213(151)			786(587)
	薬学類*					1(0)	38(25)	37(24)	76(49)
	創薬科学類*					7(0)			7(0)
	計	384	393(230)	411(231)	385(220)	414(230)	157(52)	160(62)	1,920(1,025) * 53.4%
国際基幹教育院 総合教育部	総合教育部(文系)	-	72(36)	1(1)					73(37)
	総合教育部(理系)	-	83(19)						83(19)
	計	-	155(55)	1(1)					156(56) * 35.9%
合計	1,836	1,906(821)	1,794(773)	1,820(707)	2,161(833)	157(52)	160(62)	7,998(3,248) * 40.6%	

学生数

学生数

大学院

修士課程・博士前期課程

単位：人

令和6年5月1日現在

※は従前の専攻を示す。() は女子学生数を内数で示す。* は女子学生の比率を示す。

研究科	専攻名	入学定員	在籍者数			計
			1年次	2年次	3年次	
人間社会環境研究科	人文学専攻	23	21(12)	41(19)		62(31)
	経済学専攻	6	3(2)	12(5)		15(7)
	地域創造学専攻	14	19(9)	22(13)		41(22)
	国際学専攻	10	1(1)	9(8)		10(9)
	計	53	44(24)	84(45)		128(69) * 53.9%
自然科学研究科	数物科学専攻	59	48(4)	98(12)		146(16)
	物質化学専攻	63	72(19)	72(14)		144(33)
	機械科学専攻	72	69(3)	84(4)		153(7)
	フロンティア工学専攻	83	92(4)	89(10)		181(14)
	電子情報通信学専攻	63	64(1)	84(6)		148(7)
	地球社会基盤学専攻	69	51(9)	92(19)		143(28)
	生命理工学専攻	41	40(16)	48(15)		88(31)
	機械科学専攻*			4(0)		4(0)
	電子情報科学専攻*			1(0)		1(0)
	計	450	436(56)	572(80)		1,008(136) * 13.5%
医薬保健学総合研究科	医科学専攻	15	11(2)	19(12)		30(14)
	創薬科学専攻	38	39(18)	48(15)		87(33)
	保健学専攻	70	72(39)	72(41)		144(80)
	計	123	122(59)	139(68)		261(127) * 48.7%
新学術創成研究科	融合科学共同専攻	14	11(1)	11(1)		22(2)
	ナノ生命科学専攻	12	5(0)	12(3)		17(3)
	計	26	16(1)	23(4)		39(5) * 12.8%
法学研究科	法学・政治学専攻	8	4(0)	12(6)		16(6)
	計	8	4(0)	12(6)		16(6) * 37.5%
合計	660	622(140)	830(203)		1,452(343) * 23.6%	

大学院

博士課程・博士後期課程

研究科	専攻名	入学定員	在籍者数				計
			1年次	2年次	3年次	4年次	
人間社会環境研究科	人間社会環境学専攻	12	18(10)	20(8)	37(20)		75(38) * 50.7%
	計	12	18(10)	20(8)	37(20)		75(38) * 50.7%
自然科学研究科	数物科学専攻	17	7(1)	18(6)	20(7)		45(14)
	物質化学専攻	16	5(2)	7(0)	14(1)		26(3)
	機械科学専攻	19	5(1)				5(1)
	フロンティア工学専攻	19	6(1)				6(1)
	電子情報通信学専攻	17	8(0)				8(0)
	地球社会基盤学専攻	19	7(1)				7(1)
	生命理工学専攻	13	3(0)				3(0)
	機械科学専攻*			3(0)	24(1)		27(1)
	電子情報科学専攻*			10(2)	25(2)		35(4)
	環境デザイン学専攻*			13(6)	13(5)		26(11)
	自然システム学専攻*			13(3)	26(4)		39(7)
計	120	41(6)	64(17)	122(20)		227(43) * 18.9%	
医薬保健学総合研究科	医学専攻	64	43(14)	65(15)	67(20)	178(42)	353(91)
	薬学専攻	4	3(1)	5(3)	7(3)	4(2)	19(9)
	創薬科学専攻	11	11(3)	15(5)	21(6)		47(14)
	保健学専攻	25	12(7)	27(13)	68(33)		107(53)
	脳医学専攻*					4(2)	4(2)
	がん医学専攻*					10(0)	10(0)
	循環医学専攻*					9(1)	9(1)
環境医学専攻*					1(1)	1(1)	
計	104	69(25)	112(36)	163(62)	206(48)	550(171) * 31.1%	
先進予防医学研究科	先進予防医学共同専攻	12	10(3)	10(3)	11(4)	44(9)	75(19)
	計	12	10(3)	10(3)	11(4)	44(9)	75(19) * 25.3%
新学術創成研究科	融合科学共同専攻	14	3(1)	4(3)	9(5)		16(9)
	ナノ生命科学専攻	10	7(4)	11(4)	18(9)		36(17)
	計	24	10(5)	15(7)	27(14)		52(26) * 50.0%
合計	272	148(49)	221(71)	360(120)	250(57)	979(297) * 30.3%	

大学院

専門職学位課程

研究科	専攻名	入学定員	在籍者数			計
			1年次	2年次	3年次	
法学研究科	法務専攻	15	8(5)	19(3)	15(7)	42(15)
	計	15	8(5)	19(3)	15(7)	42(15) * 35.7%
教職実践研究科	教職実践高度化専攻	15	13(8)	16(9)		29(17)
	計	15	13(8)	16(9)		29(17) * 58.6%
合計		30	21(13)	35(12)	15(7)	71(32) * 45.1%

入学志願者および入学状況（学士）

令和6年度

※グラフの「%（パーセント）」表記は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計値が「100%」にならない場合があります。

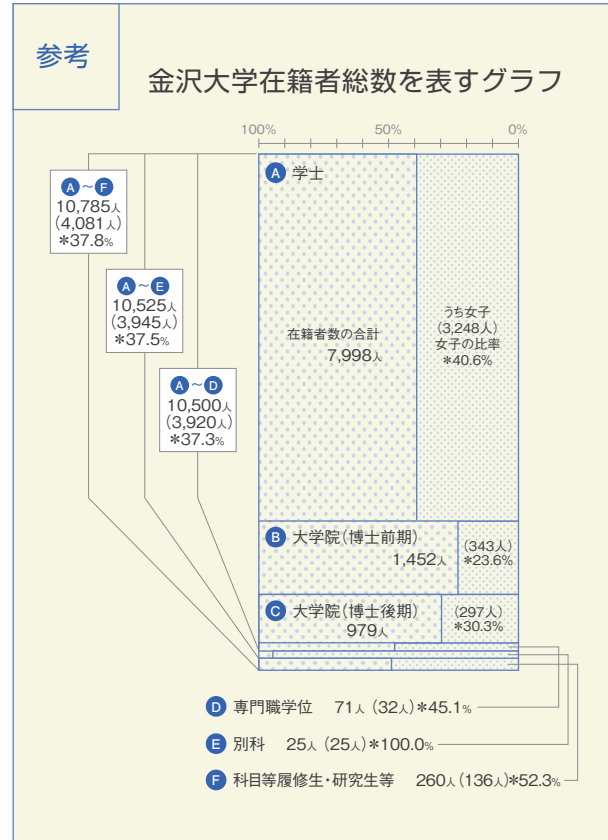
令和6年5月1日現在
() は女子学生数を内数で示す。
*は女子学生の比率を示す。

別科

別科	入学定員	在籍者数
養護教諭特別別科 (1年制)	人 40	人 25(25)
合計	40	25(25) *100.0%

科目等履修生・研究生等

区分	在籍者数		
	科目等履修生	研究生等	計
学士	人 22(12)	人 137(76)	人 159(88)
大学院	3(2)	81(33)	84(35)
国際機構	0(0)	17(13)	17(13)
合計	25(14)	235(122)	260(136) *52.3%



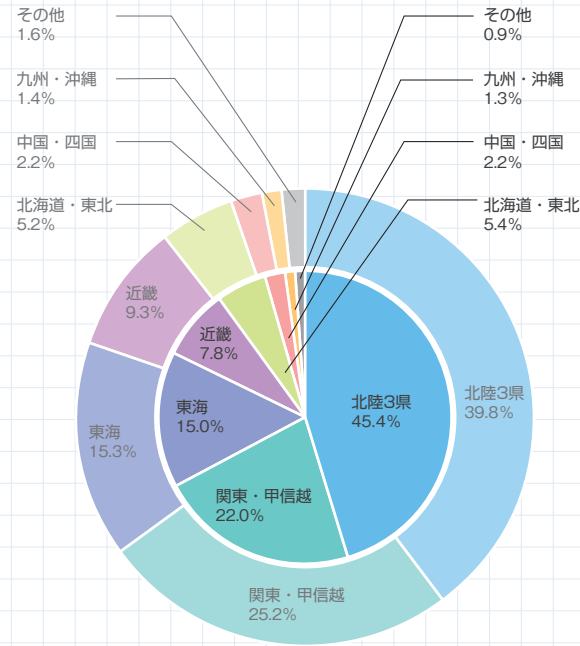
附属学校園

令和6年5月1日現在
() は女子学生等数を内数で示す。
*は女子学生等の比率を示す。

学校名	学級数	入学(園)定員	収容定員	在籍者数						計	
				1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次		
幼稚園	4	人 (満3歳児) 12 人 (3歳児・4歳児・5歳児) 24	84	満3歳児 3(0) *令和6年5月2日以降入園児童等は含まれていない。	3歳児 24(10)	4歳児 24(14)	5歳児 23(12)			74(36)	
小学校	18 (複式) 1 (さくら) 1	90 6 8	609 12 8	89(44)	88(45) 1(0)	90(44) 6(2)	101(52) 7(3)	107(53)	113(56)	588(294) 13(5) 1(0)	
中学校	12	160	480	160(80)	157(79)	158(78)				475(237)	
高等学校	9	120	360	120(55)	121(67)	121(59)				362(181)	
特別支援学校	小学部	(複式) 3	3	18	3(2)	3(0)	3(1)	3(2)	3(2)	3(1)	18(8)
	中学部	3	6	18	5(2)	6(2)	5(2)				16(6)
	高等部	3	8	24	8(4)	8(5)	8(3)				24(12)
合計	54	437	1,613	388(187)	408(208)	415(203)	134(69)	110(55)	116(57)	1,571(779) *49.6%	

出身地別割合

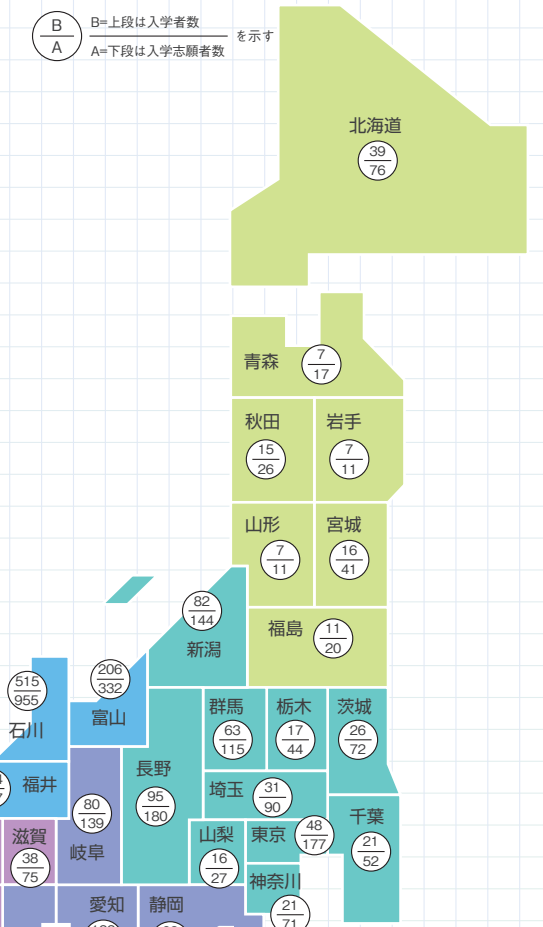
外側:入学志願者 内側:入学者



全体 入学者 1,905人 入学志願者 3,855人

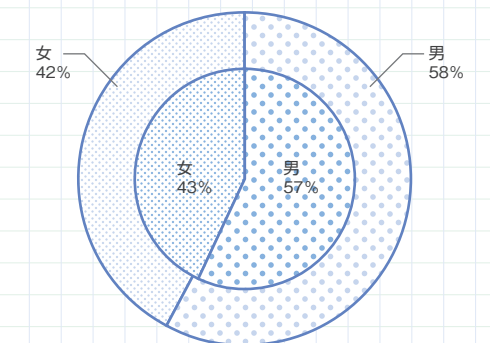
注) 都道府県および出身地とは、出身高等学校等の所在地によるものとする。

都道府県別数



男女別割合

外側:入学志願者 内側:入学者



高等学校卒業程度認定試験等合格者	6/16
外国の学校等	12/44
その他(専修学校の高等課程等)	0/0

学生数

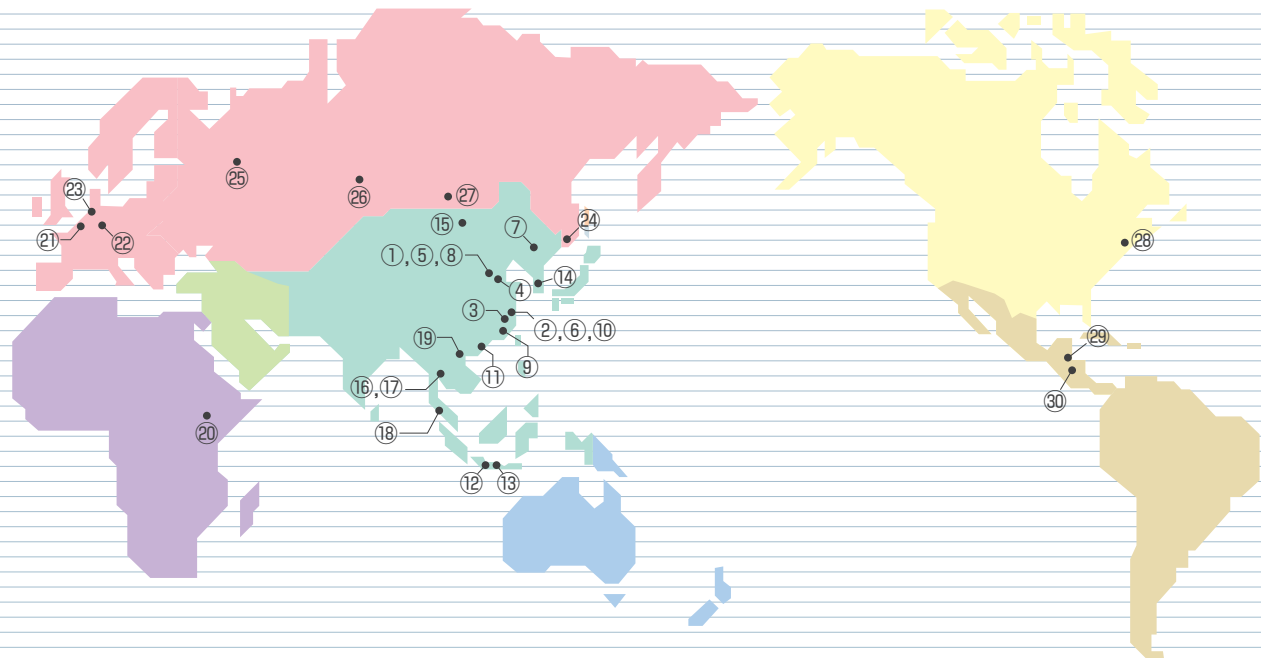
入学志願者および入学状況(学士)

国際交流

■海外リエゾンオフィス

令和6年5月1日現在

区分	国・地域名	記号	施設名(都市名)	オフィス設置場所	設置年月
アジア	中国	①	北京事務所(北京)	中国科学院大気物理研究所	H19.04
		②	上海事務所(上海)	石川県上海事務所	H20.08
		③	杭州事務所(杭州)	浙江工業大学	H21.04
		④	天津事務所(天津)	天津市生物医学研究所	H21.04
		⑤	北京事務所(北京)	北京師範大学	H21.08
		⑥	上海事務所(上海)	北陸銀行上海駐在員事務所	H21.09
		⑦	国立六大学長春共同事務所(長春)	東北師範大学	H26.11
		⑧	北京事務所(北京)	日中文化交流センター	H28.10
		⑨	福州事務所(福州)	福州大学建築学院	H29.08
		⑩	上海事務所(上海)	日中文化交流センター	R1.07
		⑪	深圳事務所(深圳)	清華大学深圳国際大学院	R2.04
	インドネシア	⑫	バンドン事務所(バンドン)	バンドン工科大学	H21.04
		⑬	国立六大学スラバヤ事務所(スラバヤ)	スラバヤ工科大学	R2.12
	韓国	⑭	大田事務所(大田)	韓国地質資源研究院	H29.10
	モンゴル	⑮	ウランバートル事務所(ウランバートル)	モンゴル国立医科大学	R6.04
	タイ	⑯	バンコク事務所(バンコク)	モンクット王工科大学	H22.02
		⑰	バンコク事務所(バンコク)	KXビル	H29.08
	ベトナム	⑱	PSU事務所(ハジャイ、スラタニ、ブーケット)	プリンスオブソンクラ大学	H30.11
		⑲	ハノイ事務所(ハノイ)	ハノイ医科大学	H22.02
アフリカ	ケニア	⑳	ナイロビ事務所(ナイロビ)	ケニア中央医学研究所	H22.03
ヨーロッパ	ベルギー	㉑	ゲント事務所(ゲント)	ゲント大学	H27.05
	ドイツ	㉒	デュッセルドルフ事務所(デュッセルドルフ)	デュッセルドルフ大学	H30.09
	オランダ	㉓	国立六大学欧州事務所(ライデン)	シーボルトハウス	H28.08
	ロシア	㉔	ウラジオストク事務所(ウラジオストク)	ロシア科学アカデミー極東支部太平洋海洋研究所	H20.11
		㉕	カザン事務所(カザン)	カザン連邦大学	H30.09
		㉖	クラスノヤルスク事務所(クラスノヤルスク)	クラスノヤルスク医科大学	H30.10
		㉗	イルクーツク事務所(イルクーツク)	イルクーツク国立大学	R3.10
北アメリカ	アメリカ合衆国	㉘	USA事務所(メドフォード)	タフツ大学	H28.12
中南アメリカ	グアテマラ	㉙	ティカル事務所(フローレス)	文化スポーツ省文化自然遺産副省ティカル国立公園	H24.07
	ホンジュラス	㉚	コパン事務所(コパン・ルイナス)	ホンジュラス国立人類学歴史学研究所	H29.08



■大学間/部局間国際交流協定 機関分布

※令和6年5月1日現在

	アジア	中東	オセアニア	アフリカ	ヨーロッパ	北アメリカ	中南アメリカ	国際機関
大学間国際交流協定 241 機関 (58 国 1 地域)	141	8	6	6	55	13	11	1
部局間国際交流協定 100 機関 (32 国 1 地域)	61	1	3	2	28	4	-	1
総計 341 機関 (63 国 1 地域)	202	9	9	8	83	17	11	2

■大学間国際交流協定機関 241 機関 (58 国 1 地域)

令和6年5月1日現在

国・地域名	協定機関名	締結年月日
国際機関	東・東南アジア地球科学計画調整委員会「CCOP」	H23.3.29
アジア		
バングラデシュ	ダッカ大学	H22.4.19
	チャッタゴン大学	H26.10.22
カンボジア	アンコール遺跡整備公園	H22.2.9
	カンボジア工科大学	H22.2.11
	カンボジア国立経営大学	H26.2.26
	健康科学大学	R4.9.14
中国	蘇州大学	H9.1.22
	ハルビン医科大学	H11.3.20
	北京師範大学	H11.9.14
	北京工業大学	H12.8.11
	大連大学	H13.3.8
	四川大学	H15.3.5
	大連理工大	H15.10.21
	南京大	H16.3.26
	延辺大	H19.1.31
	華東理工大	H20.11.20
	南開大	H20.12.23
	浙江工業大	H20.12.24
	北京語言大	H21.3.30
	西安電子科技大	H21.8.24
	東華大	H22.11.1
	中国科学院地理科学・資源研究所	H23.5.3
	北京大	H23.10.19
	上海對外經貿大	H23.12.15
	東北師範大	H26.11.4
	青島科技大	H26.12.23
	上海理工大	H27.5.25
	中国人民大	H28.2.29
	吉林大	H28.8.24
	同済大	H29.3.1
	華南理工大	H29.3.24
	重慶大	H29.5.18
	東北大	H30.5.9
	南方科技大	H31.4.22
	河南中醫藥大	R1.11.26
	蘭州大	R1.11.29
	清華大	R3.12.20
インド	サビトリバイ・フル・ブネー大	H11.9.1
	ティラク・マハラシュトラ大	H25.5.7
	ナーランダ大	H29.4.27
	インド工科大学グワハティ校	R4.11.16
	学際保健科学技術大	R4.11.22
	インド工科大学マドラス校	R5.2.2
	インド工科大学ハイデラバード校	R5.6.5
	バンガロール大	R5.7.11
	ラプリープロフェッショナル大	R5.11.30
	ニッテ大	R6.2.2
インドネシア	バンドン工科大学	H20.3.3
	インドネシア教育大	H22.5.24
	スマラン国立大	H24.9.24
	プラウイジャヤ大	H24.9.25
	インドネシア大	H24.9.25
	ガジャ・マダ大	H24.10.18
	国立マラン大	H25.4.2
	インドネシアコンピューター大	H28.1.30
	国際女性大	H28.1.30
	バスマン大	H28.1.30
	エクイタス経済大	H28.1.30
	ムルデカ大マラン	H28.1.30
インドネシア	ハサヌディン大	H29.2.22
	ディボネゴロ大	H29.7.25
	ブルタミナ大	H29.11.7
	テルコム大	H30.11.2
	ムハマディア大スマラン校	R2.4.13
	スラバヤ工科大学	R4.9.28
	バダン州立大	R6.2.5
	K. H. アブツラーマン・ワヒード・ベカロンガン・イスラム国立大	R6.2.15
韓国	東亜大	H10.4.16
	釜山大	H12.9.26
	韓国地質資源研究院	H17.10.17
	釜慶大	H19.1.23
	湖西大	H24.9.25
	漢陽大	H25.1.7
	全北大	H25.6.24
	金烏工科大学	H26.7.16
	仁荷大	R6.2.14
ラオス	ラオス国立大	H25.12.26
	ラオス保健科学大	H25.12.27
マレーシア	マラヤ大	H23.4.29
	マレーシア工科大学	H28.6.23
	マレーシア科学大	R6.3.14
モンゴル	モンゴル国立大	H24.10.5
	モンゴル国立医科大学	H27.10.15
	モンゴル国立がんセンター	H27.10.30
	モンゴル科学アカデミー	H27.11.16
	モンゴル国立第二病院	H31.5.16
フィリピン	国立イフガオ大	H30.4.17
	フィリピン大オープンユニバーシティ	H30.12.12
	国立フィリピン大	H31.2.15
スリランカ	ルフナ大	R5.1.5
タイ	チュラロンコン大	H11.7.16
	モンクット王工科大学 トンブリ校	H12.4.21
	チェンマイ大	H20.1.8
	プリンスオブソンクラ大	H23.3.24
	コンケン大	H23.6.13
	シーナカリンウィロート大	H23.7.22
	ナレースワン大	H25.9.26
	カセサート大	H27.1.5
	ブラパー大	H30.1.4
	プリンスオブソンクラ大/タイ国立科学技術開発庁 国立遺伝子生命工学研究センター	H30.11.5
	マヒドン大	H30.11.6
東ティモール	東ティモール国立大	R5.3.8
	国立科学技術研究所	R5.3.8
ベトナム	ハノイ医科大学	H21.9.16
	ハノイ工科大学	H21.9.18
	ベトナム金融アカデミー	H21.12.4
	カントー大	H21.12.4
	ダナン大技術教育大	H21.12.4
	貿易大	H21.12.4
	ハイフォン医科薬科大	H21.12.4
	ハノイ師範大	H21.12.4
	ハノイ大	H21.12.4
	ハノイ薬科大	H21.12.4
	ホーチミン市医科薬科大	H21.12.4
	ホーチミン市教育大	H21.12.4
	フエ大	H21.12.4
	ニャチャン大	H21.12.4
	ノンラム大	H21.12.4
	タイグエン大	H21.12.4
	タイグエン医科薬科大	H21.12.4

■部局間国際交流協定機関 100機関 (32か国1地域)

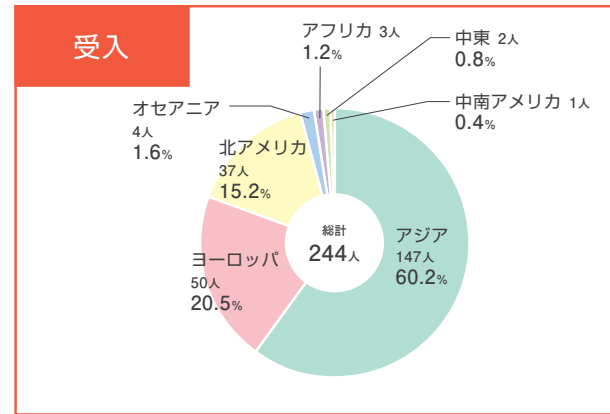
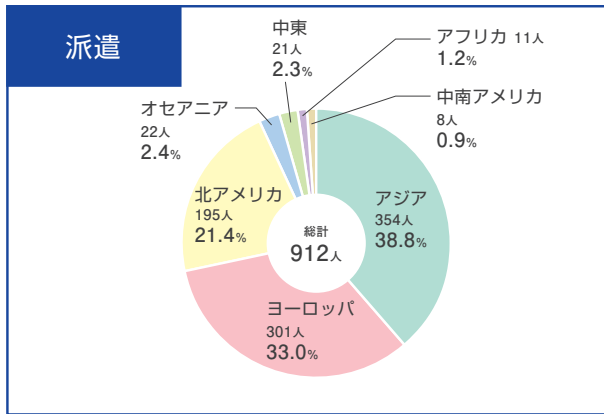
Table with columns: 国・地域名, 協定機関名, 締結年月日. Lists international exchange agreements for countries like Vietnam, Taiwan, Middle East, Africa, Europe, etc.

Table with columns: 国・地域名, 協定機関名, 締結年月日. Lists international exchange agreements for countries like Ireland, Italy, Kazakhstan, Kyrgyzstan, Latvia, Norway, Poland, Portugal, Russia, Slovakia, Spain, Sweden, UK, Ukraine, Uzbekistan, North America, South America, etc.

Table with columns: 区分, 国・地域名, 協定機関, 本学の協定締結部局, 締結年月日. Detailed list of agreements including specific departments like 'International Center for Education and Research' and 'Department of Environmental Science'.

単位:人
令和5年度

研究者等交流実績／派遣および受入



※グラフの「% (パーセント)」表記は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計値が「100%」にならない場合があります。

区分	国・地域名	派遣	受入
アジア	バングラデシュ	2	
	カンボジア	24	9
	中国 (香港含む)	53	58
	インド	12	17
	インドネシア	29	15
	韓国	49	11
	ラオス	2	
	マレーシア	6	1
	モンゴル	16	5
	ミャンマー		2
	ネパール	1	
	パキスタン		2
	フィリピン	2	1
	シンガポール	20	1
	スリランカ	3	1
	タイ	55	10
	東ティモール	8	1
ベトナム	23	7	
台湾 (地域)	49	6	
計		354	147
中東	イラン	1	
	イラク	2	
	イスラエル		1
	ヨルダン	4	
	オマーン	1	
	サウジアラビア	2	
	トルコ	10	
	アラブ首長国連邦	1	1
	計	21	2
オセアニア	オーストラリア	16	4
	ニュージーランド	4	
	バヌアツ	1	
	その他 (オセアニア地域)	1	
計	22	4	
アフリカ	アルジェリア		1
	エジプト	6	1
	エチオピア	1	
	モーリタニア		1
	モーリシャス	2	
	モロッコ	1	
	南アフリカ	1	
	計	11	3

区分	国・地域名	派遣	受入
ヨーロッパ	オーストリア	16	1
	ベルギー	6	
	ブルガリア	4	
	クロアチア	1	
	キプロス	2	
	チェコ	12	
	デンマーク	3	1
	エストニア	1	
	フィンランド	5	3
	フランス	36	6
	ドイツ	57	12
	ギリシャ	3	
	アイスランド	1	
	アイルランド		3
	イタリア	40	3
	キルギス共和国	1	
	マルタ		
	オランダ	25	1
	ノルウェー	2	
	ポーランド	3	2
ポルトガル	4		
ルーマニア	2		
スロバキア	2		
スペイン	12	2	
スウェーデン	15	3	
スイス	11	2	
イギリス	34	11	
ウズベキスタン共和国	3		
計	301	50	
北アメリカ	カナダ	19	9
	アメリカ合衆国	176	28
	計	195	37
中南アメリカ	アルゼンチン	1	
	ブラジル	1	
	グアテマラ	1	
	ホンジュラス	1	
	メキシコ	4	
	パラグアイ		1
計	8	1	
総計		912	244

留学実績

単位:人
各年5月1日現在

外国人留学生受入状況の推移

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
学士	79	73	62	64	52	48	52
大学院 (修士)	168	196	198	227	249	273	261
大学院 (博士)	225	223	233	233	260	266	294
研究生・その他	160	174	125	112	82	207	217
計	632	666	618	636	643	794	824

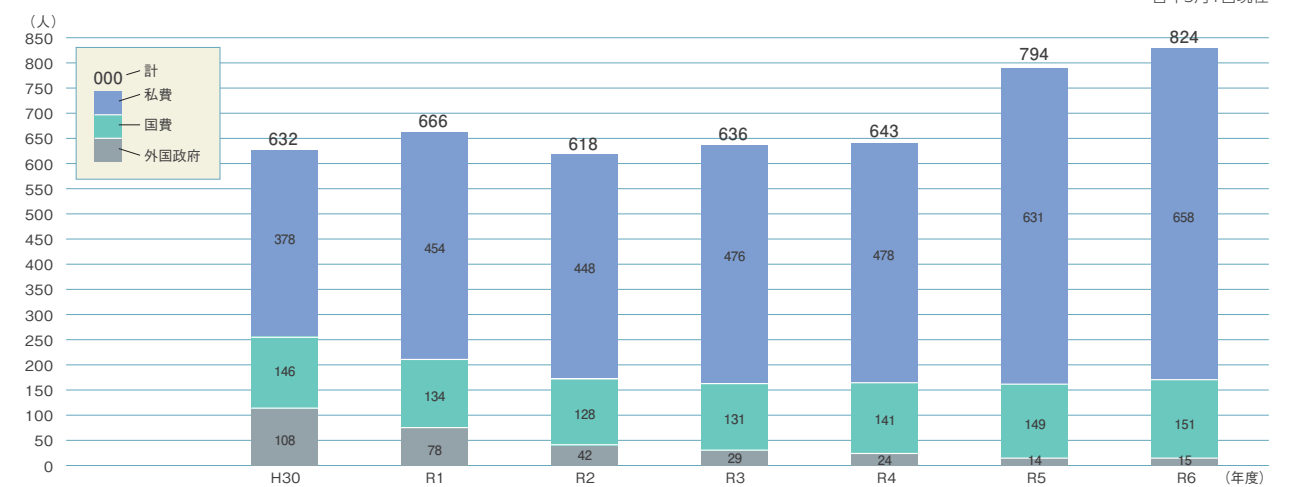
国・地域別外国人留学生受入状況

単位:人
令和6年5月1日現在

区分	国・地域名	学域学生	大学院 (修士課程)	大学院 (博士課程)	研究生・その他	計
アジア	バングラデシュ		1	22	1	24
	カンボジア		1	1	2	5
	中国 (香港含む)	19	167	135	86	407
	インド			3		3
	インドネシア	2	33	52	13	100
	韓国	8	3	1	9	21
	ラオス	2	1			3
	マレーシア	11				11
	モンゴル	1	3	5		9
	ミャンマー		1	4	2	7
	パキスタン		2	3		5
	スリランカ		2	1		3
	タイ	1	19	9	4	33
	ベトナム	2	9	17	11	39
台湾	2	6	5	9	22	
中東	アフガニスタン			1		1
	イラン			1		1
アフリカ	アルジェリア			1		1
	コンゴ民主共和国		1			1
	エジプト			2		2
	ガンビア			1		1
	ギニアビサウ		1			1
	ケニア		1			1
	マダガスカル			1		1
	モーリタニア			1		1
	モロッコ				1	1
	ナイジェリア			1		1
ヨーロッパ	アゼルバイジャン			1		1
	ベルギー				8	8
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	1				1
	チェコ			1	4	5
	デンマーク				2	2
	フランス				5	5
	ドイツ		1	2	4	7
	アイルランド				2	2
	イタリア			1	1	2
	キルギス共和国				3	3
	オランダ				14	14
	ポーランド				3	3
	ポルトガル				1	1
	ロシア			14	3	17
	スロバキア			1	1	2
	スペイン	1			1	2
	スイス				1	1
	イギリス			2	1	3
	ウクライナ				3	3
	ウズベキスタン		2		5	7
北アメリカ	カナダ			2	2	2
	アメリカ合衆国		3	1	6	10
中南アメリカ	ブラジル	1	3	1	2	7
	コスタリカ			1		1
	グアテマラ		1			1
	メキシコ			1		1
オセアニア	ペネズエラ				1	1
	オーストラリア				6	6
フィジー				1	1	
合計		52	261	294	217	824

外国人留学生数の推移

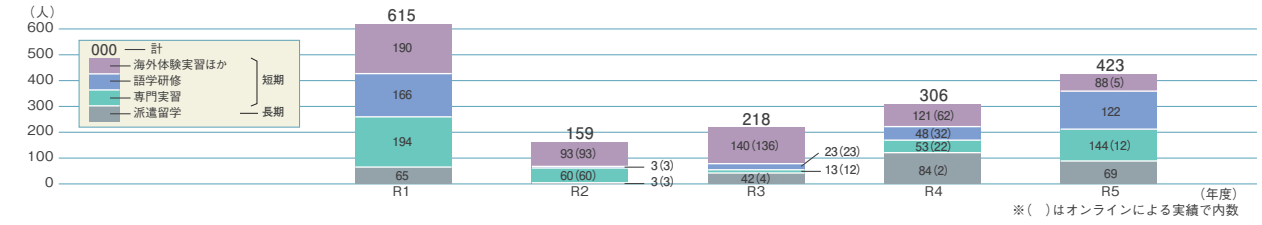
各年5月1日現在



科研費・外部資金受入等

派遣実績

金沢大学公式海外派遣プログラム派遣者数の推移



大学別派遣留学生派遣状況

区分	国・地域名	大学名	R1	R2	R3	R4	R5	
アジア	中国	蘇州大学	2					
		北京師範大学	1					
		南京大学	1			1 (1)		
		延辺大学	1					
		北京語言大学	2		1 (1)			
		東華大学		1 (1)	2 (2)	1 (1)		
		中国人民大學	1					
		上海理工大学					1	
		インドネシア	インドネシア大学	1				
			ハサヌディン大学			1		
	韓国	漢陽大学			2		1	
		釜慶大学					1	
		釜山大学					2	
	マレーシア	マラヤ大学	3			3	3	
		マレーシア工科大学				1		
	タイ	チェンマイ大学	1			1		
		シーナカリンウィロート大学	1		2	2		
		カセサート大学	1			1		
	ベトナム	マヒドン大学					1	
		ハノイ貿易大学			1		1	
ハノイ大学		1			1			
台湾	ベトナム国家大学ハノイ校 外国語大学	1				1		
	ベトナム国家農業大学					1		
	国立台湾師範大学				2			
オセアニア	国立台湾大学	2		1 (1)	1	1		
	輔仁大学				1	1		
	オーストラリア国立大学				4	2		
ヨーロッパ	オーストリア	ウィーン大学				1		
		シドニー工科大学	1			5	4	
	ベルギー	ニュージーランド大学				2		
		チャールズ・ダーウィン大学	1					
		ウィーン大学				1		
	デンマーク	ゲント大学	5	1 (1)	7	6	6	
		ブリュッセル自由大学				1		
	チェコ	リエージュ大学					1	
		カレル大学			1	1	3	
	フィンランド	コペンハーゲン大学					3	
		ユバスキュラ大学	4		4	4	4	
	フランス	アールト大学					1	
		ロレーヌ大学	1			2		
		オルレアン大学	2			2	2	
	ドイツ	トウールズ大学ジャン・ジョレス校	2			2		
		ジャン・ムーラン・リヨン第3大学			1	3		
		レーゲンスブルク大学	2		2	1	1	
	イタリア	ヴェルツブルク大学	2		1	1		
		シュトゥットガルト大学					1	
		デュッセルドルフ大学	2		1	2	2	
オランダ	ダブリンシティ大学	2			2			
	フィレンツェ大学				1			
ポーランド	カザフ国立大学					1		
	※ライデン大学人文学部					2		
スウェーデン	ノルウェー科学技術大学	1						
	ヤギェヴォ大学				1			
ロシア	ワルシャワ大学	2			1	1		
	ミーニョ大学				2			
スペイン	カザン連邦大学			1				
	サンクトペテルブルク国立大学			1				
	バルセロナ自治大学			1	2	2		
中南アメリカ	サラマンカ大学				2	2		
	サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学			1				
	アルカラ大学	1		1	2			
北アメリカ	スウェーデン	2		1	3	5		
	イギリス	2		1	2	2		
	セントラル・ランカシャー大学	2		3	3	5		
	カナダ	3			2			
	アメリカ合衆国					2		
中南アメリカ	モンテレイ工科大学				1			
	合計	65	3 (3)*	42 (4)*	84 (2)*	69		

* () はオンラインによる履修で内数

科研費

受入状況

研究種目	件数	受入金額 (千円)
新学術領域研究	2	8,320
学術変革領域研究	32	328,640
基盤研究 (S)	1	39,650
基盤研究 (A)	17	160,940
基盤研究 (B)	147	720,355
基盤研究 (C)	458	557,201
挑戦的研究 (開拓, 萌芽)	72	211,250
若手研究	195	239,672
研究活動スタート支援	20	23,140
特別研究促進費	1	46,410
研究成果公開促進費	1	1,500
特別研究員奨励費	41	62,115
国際共同研究加速基金	27	129,944
合計	1,014	2,529,137

※採択者の転入・転出、廃止等を踏まえ集計したもの。
※間接経費のある場合は、受入金額に同経費を含む。

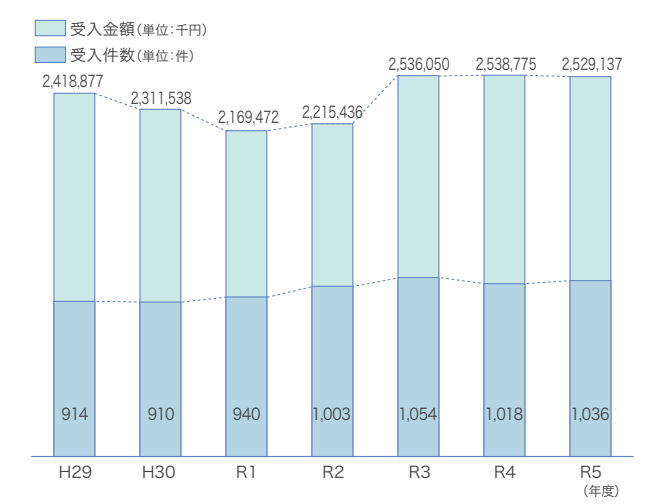
外部資金

受入状況

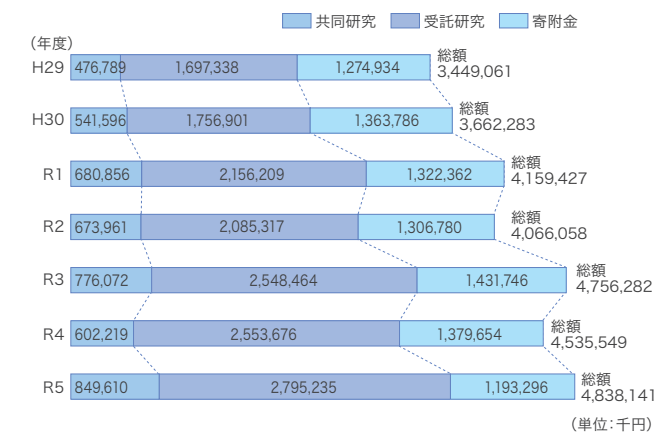
区分	件数	受入金額 (千円)
共同研究	361	849,610
受託研究	307	2,795,235
寄附金	2,466	1,193,296
合計	3,134	4,838,141

※「受託研究」には、治療薬試験分、病理組織検査等は含まない。
※「寄附金」には、金沢大学基金、預金利息等を含む。

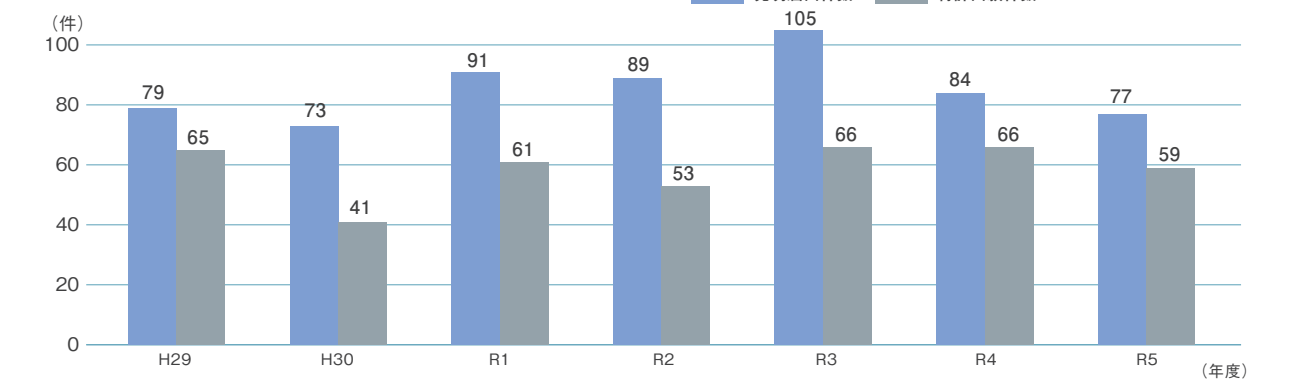
受入件数・受入金額の推移



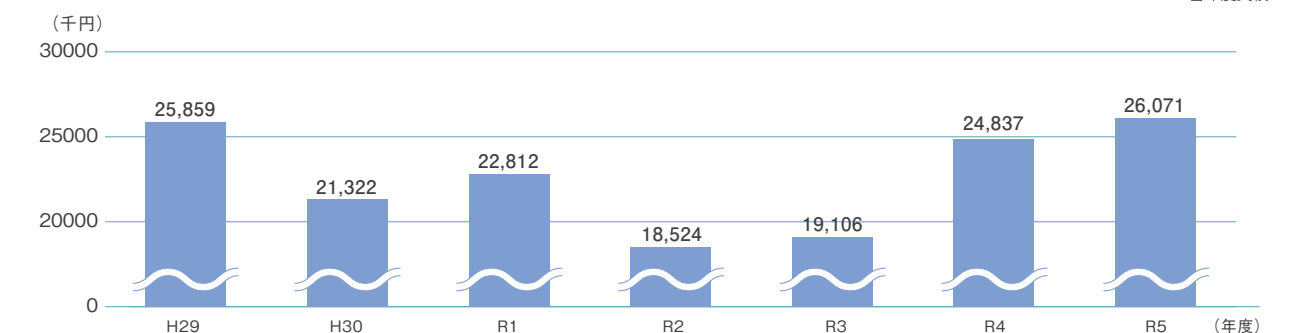
受入金額の推移



発明届出・特許出願件数の推移



特許権実施等収入の推移



附属病院

■病床数 令和6年5月1日現在

診療科等名	合計
消化器内科	50 ^床
内分泌・代謝内科	16
腎臓・リウマチ膠原病内科	28
呼吸器内科	31
循環器内科	42
血液内科	25
腫瘍内科	15
脳神経内科	20
神経科精神科	38
小児科	25
皮膚科	25
形成外科	5
心臓血管外科	34
呼吸器外科	24
小児外科	5
消化管外科	34
肝胆膵・移植外科	35
乳腺外科	15
整形外科	43
脊椎・脊髄外科	20
泌尿器科	40
眼科	47
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	36
産科婦人科	35
麻酔科蘇生科	1
脳神経外科	36
歯科口腔外科	7
周産母子センター	11
緩和ケア病床	3
救急	2
ICU	22
NICU	6
MFICU	3
GCU	12
無菌治療室	4
RI病床	6
共通病床	29
合計	830

■患者数 令和5年度

診療科等名	外来		入院	
	患者延数	1日平均患者数	患者延数	1日平均患者数
消化器内科	27,645 ^人	113.8 ^人	18,756 ^人	51.2 ^人
内分泌・代謝内科	24,058	99.0	4,822	13.2
腎臓・リウマチ膠原病内科	24,537	101.0	10,931	29.9
呼吸器内科	15,853	65.2	9,711	26.5
循環器内科	17,068	70.2	13,778	37.6
血液内科	10,155	41.8	11,314	30.9
総合診療科	1,149	4.7		
脳神経内科	7,261	29.9	6,006	16.4
神経科精神科	8,467	34.8	9,540	26.1
小児科	14,522	59.8	9,893	27.0
子どものこころの診療科	1,732	7.1		
放射線科	1,020	4.2		
放射線治療科	10,482	43.1		
皮膚科	22,081	90.9	6,929	18.9
形成外科	2,825	11.6	2,206	6.0
心臓血管外科	4,134	17.0	11,199	30.6
呼吸器外科	6,013	24.7	8,904	24.3
消化管外科	8,433	34.7	8,847	24.2
肝胆膵・移植外科	4,818	19.8	9,679	26.4
乳腺外科	10,227	42.1	3,474	9.5
小児外科	2,457	10.1	1,272	3.5
整形外科	17,463	71.9	12,442	34.0
脊椎・脊髄外科	5,355	22.0	5,490	15.0
泌尿器科	16,652	68.5	12,270	33.5
眼科	32,908	135.4	11,150	30.5
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	13,270	54.6	9,042	24.7
産科婦人科	14,099	58.0	10,481	28.6
麻酔科蘇生科	7,196	29.6	0	
脳神経外科	6,840	28.1	11,610	31.7
核医学診療科	1,617	6.7	843	2.3
歯科口腔外科	15,323	63.1	2,595	7.1
がんセンター（腫瘍内科）	3,664	15.1	3,978	10.9
疾病予防センター	361	1.5		
救急科	1,557	6.4	454	1.2
遺伝診療部	247	1.0		
合計	361,489	1,487.6	227,616	621.9

※小数点第2位を四捨五入して記載しているため、合計が一致しない場合があります。
外来診療日数：243日

附属図書館

■施設規模・蔵書数 令和6年5月1日現在

名称	建物面積	閲覧席	蔵書数			
			和書	洋書	和洋書計	雑誌
中央図書館	10,456 ^{m²}	1,100 ^席	923,803 ^冊	305,513 ^冊	1,229,316 ^冊	22,377 ^種
自然科学系図書館	5,758	622	202,893	222,758	425,651	12,821
医学図書館	3,580	394	137,479	151,499	288,978	8,389
合計	19,794	2,116	1,264,175	679,770	1,943,945	43,587

※医学図書館には保健学類図書室を含む

■サービス状況 令和5年度

総開館日数	828 ^日
総開館時間数	9,172 ^{時間}
入館者総数	516,562 ^人
貸出冊数	83,320 ^冊
学内から受付	202 ^件
文献複写 外部から受付	1,337 ^件
外部へ依頼	1,584 ^件
学内貸借	542 ^件
図書館間相互貸借 貸出	726 ^件
借受	830 ^件

※数値は3館の合計数

■情報検索サービス 令和6年度

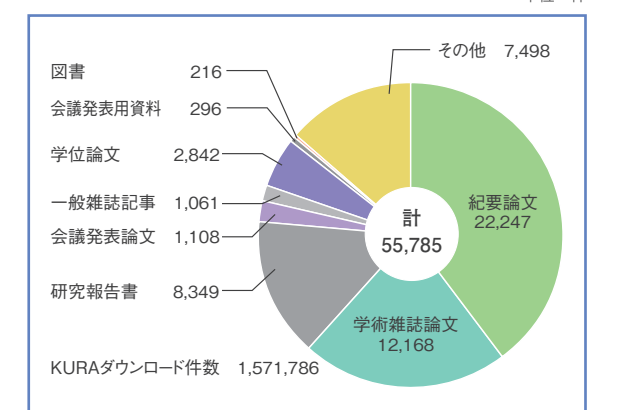
電子ジャーナルパッケージ名	タイトル数	ネットワーク対応データベース
Science Direct	2,303	朝日新聞クロスサーチ for Libraries
Springer Compact	2,198	医学中央雑誌 Web版
Wiley Online Library	1,354	最新看護索引 Web
メディカルオンライン	1,583	化学書資料館
Taylor&Francis	2,184	ジャパンナレッジLib
Oxford Journals	230	日経テレコン21
JSTOR	117	日経BP記事検索サービス
LWW Fixed 50	50	ざっさくプラス
ACS	68	CINAHL
ASCE	34	Cochrane Library
Nature	24	InCites Journal & Highly Cited Data(JCR+ESI)
その他	264	MathSciNet
合計	10,409	CAS SciFinder [®]
		Scopus
		TKCローライブラリー
		Westlaw Next

■学外利用者数 令和5年度

	学生	研究者	その他	合計
中央図書館	167 ^人	127 ^人	536 ^人	830 ^人
自然科学系図書館	45	65	281	391
医学図書館	43	40	162	245
合計	255	232	979	1,466

※医学図書館には保健学類図書室を含む

■資料種別 KURA 登録数 令和5年度 単位：件



土地・建物および所在地

キャンパス等名	土地 (㎡)	建物 (㎡)	所在地・部局等の名称
角間キャンパス	2,008,565	248,331	〒920-1192 金沢市角間町 融合学域 (研究域) 人間社会学域 (研究域) 理工学域 (研究域) 医薬保健学域 (研究域) [薬学類 (系)・医薬科学類] 国際基幹教育院 大学院人間社会環境研究科 大学院自然科学研究科 大学院医薬保健学総合研究科 [創薬科学専攻・薬学専攻] 大学院新学術創成研究科 大学院法学研究科 大学院教職実践研究科 養護教諭特別科 がん進展制御研究所 (CRI) ナノ生命科学研究所 (WPI-NanoLSI) ナノマテリアル研究所 (NanoMaRi) 設計製造技術研究所 (AMTI) 高度モビリティ研究所 古代文明・文化資源学研究所 先端観光科学研究所 附属図書館 [中央図書館・自然科学系図書館] 学術メディア創成センター 環日本海域環境研究センター 疾患モデル総合研究センター [実験動物研究施設角間分室・アイントープ 理工系研究施設・機器分析研究施設] 環境保全センター 未来知実証センター 保健管理センター グローバル人材育成推進機構 (O-GHRD) 新学術創成研究機構 (InFiniti) 先端科学・社会共創推進機構 (FSSI) 国際日本研究センター ダイバーシティ推進機構 極低温研究室 資料館 技術支援センター 高大接続コア・センター 教学マネジメントセンター 教職総合支援センター 数理・データサイエンス・AI教育センター バイオマス・グリーンイノベーションセンター (BGIC) 薬学類附属薬用植物園 学生留学生宿舍「先魁」「北溟」 国際交流会館 金沢大学創立五十周年記念館「角間の里」 角間ゲストハウス 大学会館 本部棟
宝町・鶴間キャンパス	151,053	188,591	<宝町地区> 〒920-8640 金沢市宝町13番1号 医薬保健学域 (研究域) [医学類 (系)・医薬科学類] 大学院医薬保健学総合研究科 [医科学専攻・医学専攻] 大学院先進予防医学研究科 附属図書館 [医学図書館] 疾患モデル総合研究センター (研究基盤支援施設・実験動物研究施設・アイントープ総合研究施設) 子どものこころの発達研究センター 先進予防医学研究センター <鶴間地区> 〒920-0942 金沢市小立野5丁目11番80号 医薬保健学域 (研究域) [保健学類 (系)] 大学院医薬保健学総合研究科 [保健学専攻]

キャンパス等名	土地 (㎡)	建物 (㎡)	所在地・部局等の名称
宝町・鶴間キャンパス			<宝町地区 (附属病院)> 〒920-8641 金沢市宝町13番1号 附属病院
平和町地区	79,876	22,096	〒921-8105 金沢市平和町1丁目1番15号 附属幼稚園 附属小学校 附属中学校 附属高等学校
東兼六地区	10,517	4,773	〒920-0933 金沢市東兼六町2番10号 附属特別支援学校
辰口地区	106,149	3,290	〒923-1225 能美市松が岡5丁目163 能美学舎 〒923-1224 能美市和気町オ24 環日本海域環境研究センター [低レベル放射能実験施設]
小木地区	26,488	1,441	〒927-0553 石川県鳳珠郡能登町小木 環日本海域環境研究センター [臨海実験施設]
越坂地区	0	1,246	〒927-0552 石川県鳳珠郡能登町越坂 理工学域能登海洋水産センター
潟端地区	1,489	616	〒929-0346 石川県河北郡津幡町潟端り53 潟端短艇庫
つつじが浜地区	996	440	〒926-0851 七尾市つつじが浜3番77 七尾ヨット艇庫
その他	3,742	0	〒921-8031 金沢市野町5丁目8番10号
	4,194	0	〒921-8034 金沢市泉野町2丁目13番1号
	19,881	15,002	職員宿舎
	-	-	〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3丁目2番1号 日本橋室町三井タワー 5階5-A 金沢大学東京事務所
合計	2,412,950	485,826	〒920-0031 金沢市広岡1丁目2番20号 Mビル1階・3階 金沢駅前サテライト

土地・建物および所在地

土地・建物および所在地

建物配置図

角間キャンパス

南地区

※各施設の記号はキャンパス内に設置している案内板に対応

- S1 自然科学本館
- S2 自然科学系図書館, 南福利施設(食堂・売店)
- S3 自然科学1号館
【融合学域, 理工学域, 医薬保健学域】
ナノマテリアル研究所
- S4 自然科学2号館
【融合学域, 理工学域】
高度モビリティ研究所
- S5 自然科学3号館
【融合学域, 理工学域】
- S6 がん進展制御研究所
- S7 環境保全センター
- S8 ナノ生命科学研究所
- S9 ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー, ハードラボ1
- S10 ハードラボ2
- S11 環日本海域環境研究センター, ハードラボ3
- S12 設計製造技術研究所, ハードラボ4
- S13 技術支援センター
- S14 自然科学大講義棟
- S16 学生留学生宿舎「先魁」「北溟」
- S17 バイオマス・グリーンイノベーションセンター

北地区

- N1 大会館(食堂・売店・郵便局)
- N2 中央図書館・資料館
- N3 総合教育1号館
【国際学類, 国際基幹教育院】
- N4 総合教育講義棟
- N5 総合教育2号館
【国際基幹教育院,
人間社会環境研究科】
- N6 人間社会1号館
【人文学類, 地域創造学類,
国際学類, 人間社会環境研究科】
- N7 人間社会第1講義棟
- N8 人間社会2号館
【法学類, 経済学類, 人間社会環境研究科】
- N9 北福利施設(食堂)
- N10 人間社会3号館
【学校教育学類, 地域創造学類, 教職実践研究科, 法学研究科】
- N11 人間社会第2講義棟
- N12 人間社会4号館
【学校教育学類, 地域創造学類, 教職実践研究科】
- N13 人間社会5号館
【学校教育学類, 地域創造学類, 教職実践研究科】
古代文明・文化資源学研究所
- N14 工作実習棟
- N15 教職総合支援センター
- N16 プール
- N17 資料館分館
- N18 北課外活動共用施設
- N19 屋内運動場(体育館)
- N20 エネルギーセンター

中地区

- C1 本部棟, 保健管理センター,
先端科学・社会共創推進機構
- C2 学術メディア創成センター
- C3 中福利施設(食堂)
- C4 自然科学5号館
【理工学域】
- C5 インキュベーション施設
- C7 極低温研究室
- C8 疾患モデル総合研究センター
アイソトープ理工系研究施設
- C9 かくまちプラザ
- C10 角間ゲストハウス
- C11 国際交流会館



建物配置図

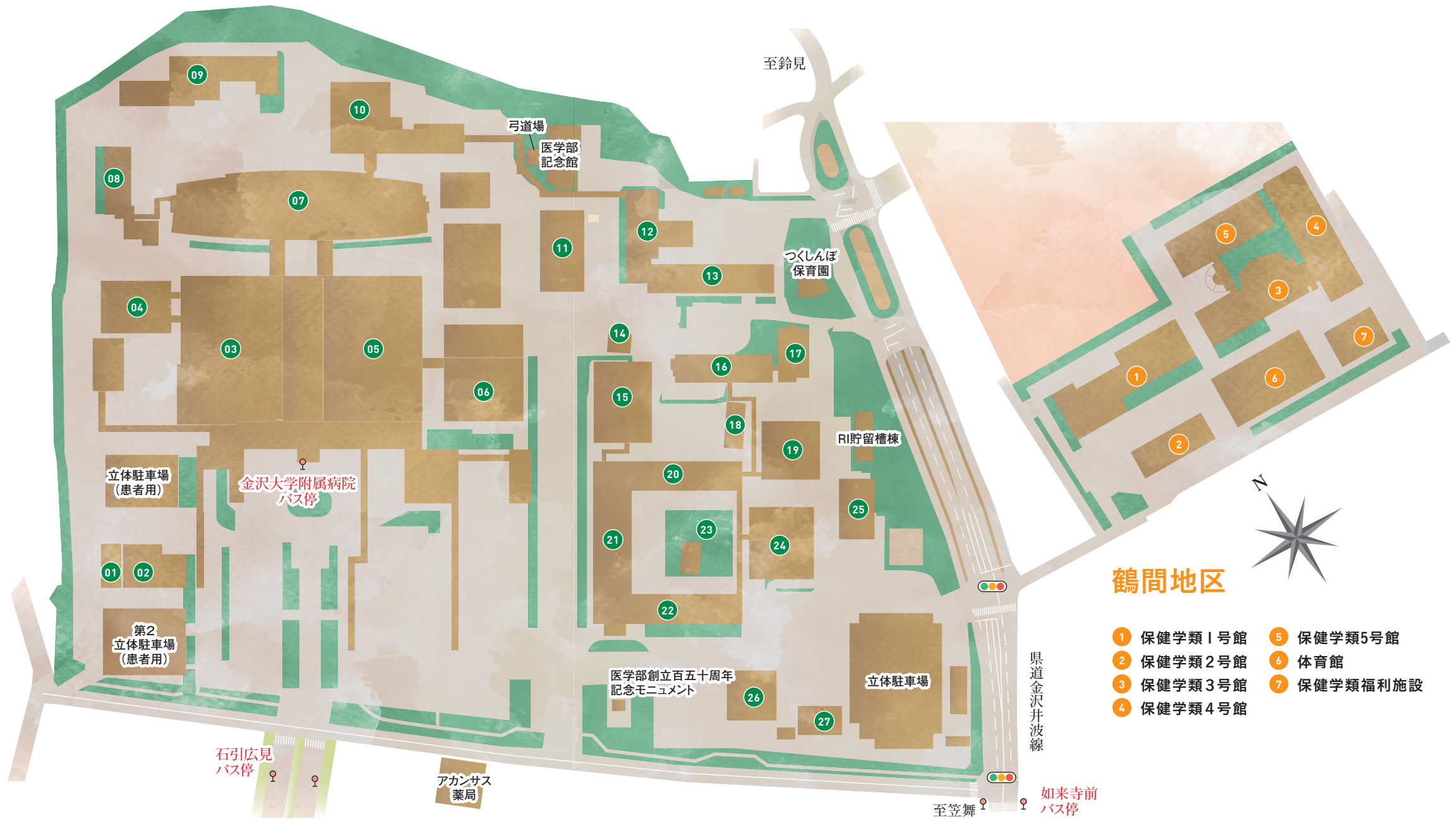
建物配置図

建物配置図

宝町・鶴間キャンパス

宝町地区

- 01 先端医療開発センター
 - 02 アネックス棟
 - 03 中央診療棟
 - 04 第2中央診療棟
 - 05 外来診療棟, 金大病院CPDセンター
 - 06 医学類C棟
 - 07 病棟(西病棟/東病棟)
 - 08 MRI-CT棟
 - 09 看護師宿舎
 - 10 北病棟
 - 11 十全講堂
 - 12 医学類A棟
 - 13 医学類B棟
 - 14 医学類病理標本庫
 - 15 医学図書館
 - 16 医学類D棟 (全学共用教育研究棟), 子どものこころの発達研究センター, 先進予防医学研究センター
 - 17 ★研究基盤支援施設
 - 18 医学類解剖標本庫
 - 19 ★実験動物研究施設
 - 20 医学類E棟
 - 21 医学類教育棟
 - 22 医学類F棟
 - 23 医学類旧書庫
 - 24 医学類G棟
 - 25 ★アイソトープ総合研究施設
 - 26 医学類福祉施設
 - 27 課外活動施設
- ★疾患モデル総合研究センター



鶴間地区

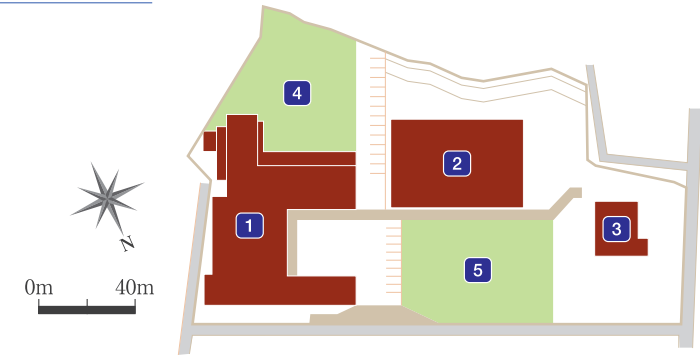
- 1 保健学類1号館
- 2 保健学類2号館
- 3 保健学類3号館
- 4 保健学類4号館
- 5 保健学類5号館
- 6 体育館
- 7 保健学類福祉施設

平和町地区



- 1 附属幼稚園
- 2 附属小学校
- 3 附属中学校
- 4 附属高等学校
- 5 附属学校事務
- 6 体育館
- 7 運動場
- 8 テニスコート
- 9 プール
- 10 附属高校創立60周年記念館「有朋館」
- 11 武道場

東兼六地区



- 1 附属特別支援学校
- 2 特別支援学校体育館
- 3 すずかけの家(日常生活訓練施設)
- 4 運動能力育成施設
- 5 運動場

キャンパス位置図

金沢市内



金沢大学校歌

室生犀星 作詞
信時潔 作曲

♩ = 約 108

あま うつ なみ けぶらひ あま そそる 白ねの
あま そそる 白ねの
はくほう 北方のみやこに 学府のありて
はくほう 北方のみやこに 学府のありて
きらきら 燦たる燈を かかげたり
きらきら 燦たる燈を かかげたり

ひと 人は人をつくるため
ひと 人は人をつくるため
のろしをあげ
のろしをあげ
えい 慧智の時間を磨く
えい 慧智の時間を磨く
はえ 光栄ある人間をつくらむと
はえ 光栄ある人間をつくらむと

しんふうぶんか 新風文化の扉は開かれ
しんふうぶんか 新風文化の扉は開かれ
あたらしの人 世代にあふれて
あたらしの人 世代にあふれて
てはつながれ 才能は結ばれて
てはつながれ 才能は結ばれて
こそりてわが学府につどへり
こそりてわが学府につどへり

「金沢大学校歌」の制定

室生犀星作詞のこの校歌は、金沢大学の看板のひとつです。1959年（昭和34年）の創立10周年事業として作られました。当初、「歌詞は職員・学生から懸賞募集し、作曲は専門家に依頼する」という計画でしたが、評議会で異論が出たため、作詞・作曲とも専門家に任せることになりました。同年4月18日、戸田学長が犀星に作詞を依頼、また犀星からの要請で作曲は信時潔に依頼しました。依頼から一箇月ほどして校歌が大学に届けられました。

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/university/management/logo>



2024年8月発行

【編集】
広報戦略室

【所在地】
〒920-1192 石川県金沢市角間町
TEL.076-264-5024 FAX.076-234-4015
<https://www.kanazawa-u.ac.jp/>



2024.8.2000